ミノルタ株式会社
ミノルタ販売株式会社

フォトサポートセンター

弊社製品のカメラ、交換レンズ、デジタルカメラ、フィルムスキャナ、露出計など写真や画像に関わる製品の機能、使い方、撮影方法などのお問い合わせをお受けいたします。

ナビダイヤル　0570-007111
ナビダイヤルは、お客様が日本全国どこからかけても市内通話料金で通話していただけるシステムです。

TEL　03-5351-9410
携帯電話・PHS等をご使用の場合はこちらをご利用ください。

FAX　03-3356-6303

受付時間　10:00～18:00（土・日・祝日定休）

Printed in Malaysia　9223-2163-61 MM-B107

www.minolta.com

α Sweet II

使用説明書

ご使用前によくお読みください。

撮影早分かり
準備編
基本撮影編
応用撮影編
カスタム設定編
付録

目次

正しく安全にお使いいただくために

お買い上げありがとうございます。
ここに示した注意事項は、正しく安全に製品をお使いいただくため、またあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。よく理解して正しく安全にお使いください。

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が予想される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意を促す内容があることを告げるものです。(左図の場合は発熱注意)

⚠警告

電池の取り扱いを誤ると、液漏れによる周囲の汚損や、発熱や破裂による火災やケガの原因となりますので、次のことは必ずお守りください。

- 指定された電池以外は使わないでください。
- 電池の極性(+/−)を逆に入れないでください。
- 表面の被膜が破れたり、はがれたりした電池は使用しないでください。
- 新しい電池と古い電池、メーカーや種類の異なる電池を混ぜて使用しないでください。
- 万一電池が液漏れし、液が目に入った場合は、こすらずにきれいな水で洗った後、直ちに医師にご相談ください。液が手や衣服に付着した場合は、水でよく洗い流してください。また、液漏れの起こった製品の使用は中止してください。

⚠警告

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁してください。
他の金属と接触すると発熱、破裂、発火の原因となります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄するか、リサイクルしてください。

ご自分で分解、修理、改造をしないでください。
内部には高圧部分があり、触れると感電の原因となります。修理や分解が必要な場合は、お買い求めの販売店または最寄りの弊社サービスセンター・サービスステーションにご依頼ください。

落下や損傷により内部、特にフラッシュ部が露出した場合は、内部に触れないように電池を抜き、使用を中止してください。
フラッシュ部には高電圧が加わっていますので、感電の原因となります。またその他の部分も使用を続けると、感電、火傷、ケガの原因となります。お買い求めの販売店または最寄りの弊社サービスセンター・サービスステーションに修理をご依頼ください。

幼児の口に入るような電池や小さな付属品は、幼児の手の届かないところに保管してください。
幼児が飲み込む原因となります。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

製品および付属品を、幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。
幼児・子供の近くでご使用になる場合は、細心の注意をはらってください。ケガや事故の原因となります。

フラッシュを人の目の近くで発光させないでください。
目の近くでフラッシュを発光させると視力障害を起こす原因となります。

車などの運転者に向けてフラッシュを発光しないでください。
交通事故の原因となります。

警告

ファインダーを通して、特に取り外したレンズのみで太陽や強い光を見ないでください。

視力障害や失明の原因となります。

引火性の高いガスの充満している中や、ガソリン、ベンジン、シンナーの近くで本製品を使用しないでください。また、お手入れの際にアルコール、ベンジン、シンナー等の引火性溶剤は使用しないでください。

爆発や火災の原因となります。

万一使用中に高熱、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、すみやかに電池を抜き、使用を中止してください。電池も高温になっていることがありますので、火傷には十分注意してください。

使用を続けると感電、火傷、ケガの原因となります。お買い求めの販売店または最寄りの弊社サービスセンター・サービスステーションに修理をご依頼ください。

注意

直射日光の当たる場所に放置しないでください。

太陽光が近くの物に結像すると、火災の原因となります。やむを得ず直射日光下に置く場合は、レンズキャップを付けてください。

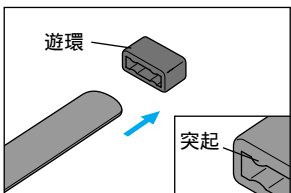
車のトランクやダッシュボードなど、高温や多湿になるところでの使用や保管は避けてください。

外装が変形したり、電池の液漏れ、発熱、破裂による火災、火傷、ケガの原因となります。

発光部に皮膚や物を密着させた状態で、フラッシュを発光させないでください。

発光時に発光部が熱くなり、火傷の原因となります。

ストラップ取付方法（補足説明）

以下の手順にしたがってストラップをカメラに取り付けてください。

1. ストラップに遊環を通します。取付方向は左図のように4ヶ所の突起のある面からストラップの先端を差し込みます。

2. ストラップの先端をストラップ取付部の下から通します。

3. ストラップの先端を遊環に通します。

● 遊環に通す際、硬くて通しにくい場合がありましたら以下の方法で通してください。

① 先端部分の近くを指で固定し、遊環を移動させて先端部を通します。
（先端部分がほぼ貫通した状態まで）

② 紐部分を持って、遊環を矢印方向に移動させます。

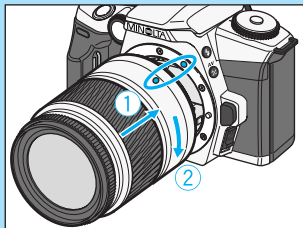
4. ストラップの止め具の内側を通して固定します。

● Ⓐ の部分を少し大きめに引き出した方が通しやすくなります。

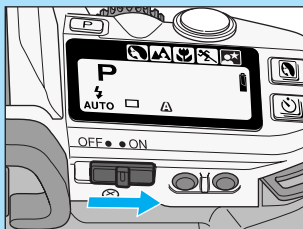
5. 遊環を下まで押し付けてストラップを固定（ズリ落ちないように）します。

※反対側も同様に取り付けてください。

Minolta Co., Ltd.

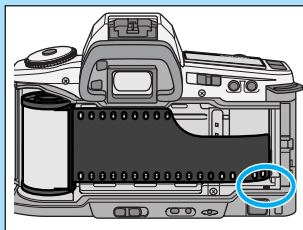
撮影早分かり(詳しくは本文をご覧ください)

1. レンズを取り付けます。

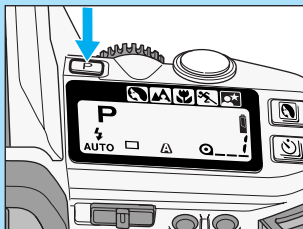
レンズとボディの2つの赤い点を合わせてはめ込み、カチッとロックがかかるまで時計方向に回します。

16 ページ

2. 電源を入れます。

メインスイッチをON にします。

18 ページ

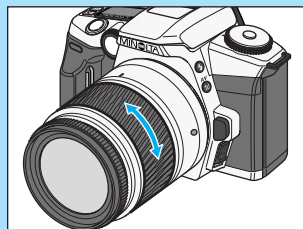
電池はすでにセットされています。

3. フィルムを入れます。

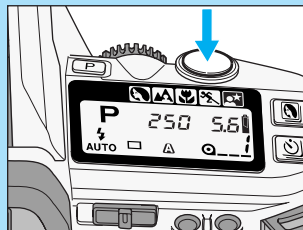
フィルムの先端を赤いマークに合わせ、裏ぶたを閉じます。19 ページ

4. おまかせPモード(全自動)にします。

P (プログラムセットボタン)を押します。 29 ページ

5. カメラを構えます。

カメラを構え、[ ](ワイドフォーカスフレーム)に被写体を入れます。 24 ページ

アイスタートをON に設定している場合は、自動的にピントが合います。 25 ページ

6. 構図を決めます。

ズームリングを回して写したいものの大きさを決めます(ズームレンズ使用の場合)。

7. 撮影します。

シャッターボタンをゆっくり押し込んで撮影します。
ピントが合いピピッと電子音が鳴るとシャッターが切れます(電子音設定ONの場合)。

27ページ

【準備編】

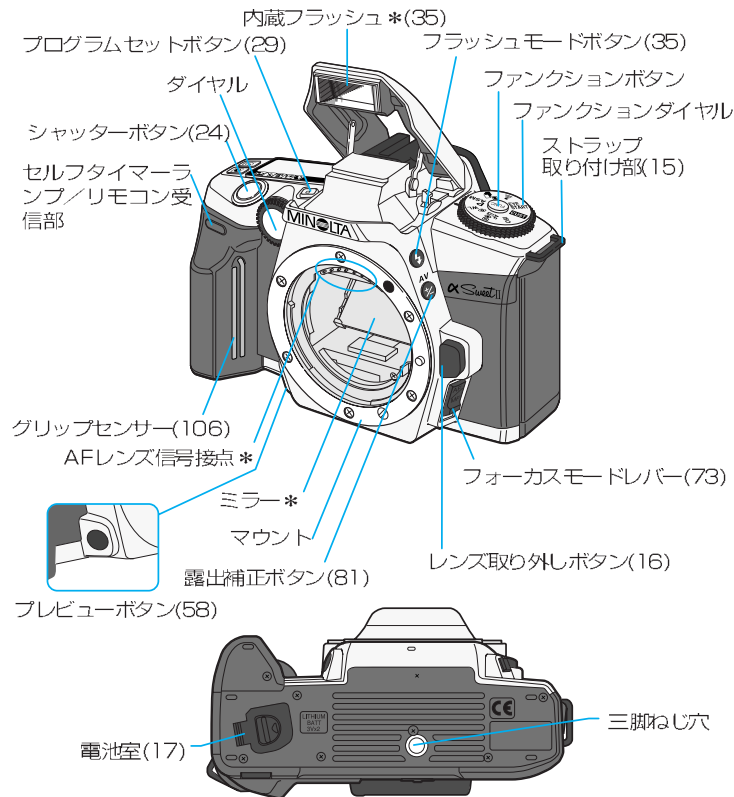
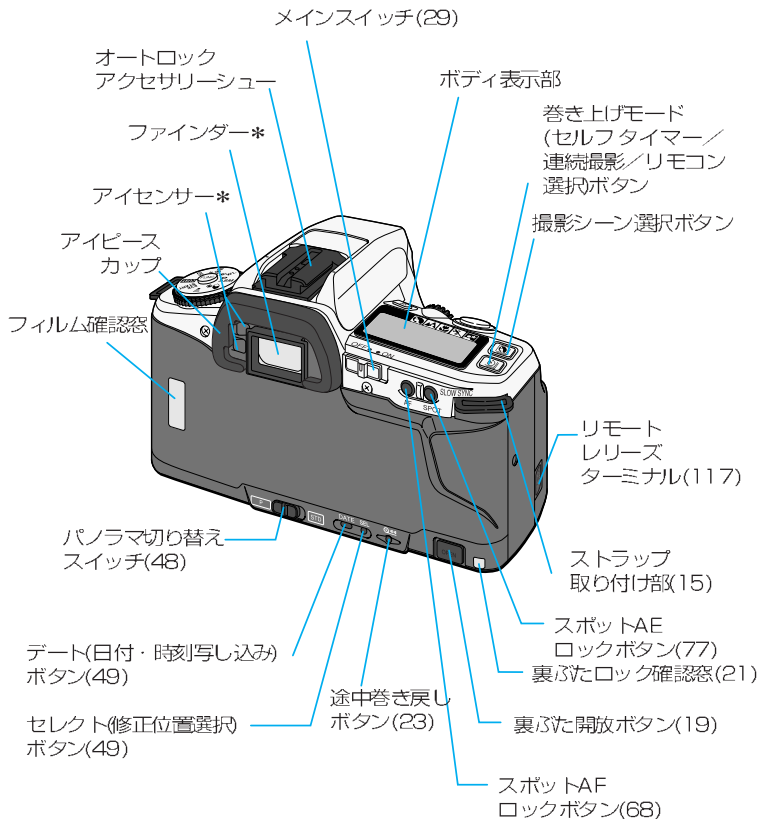
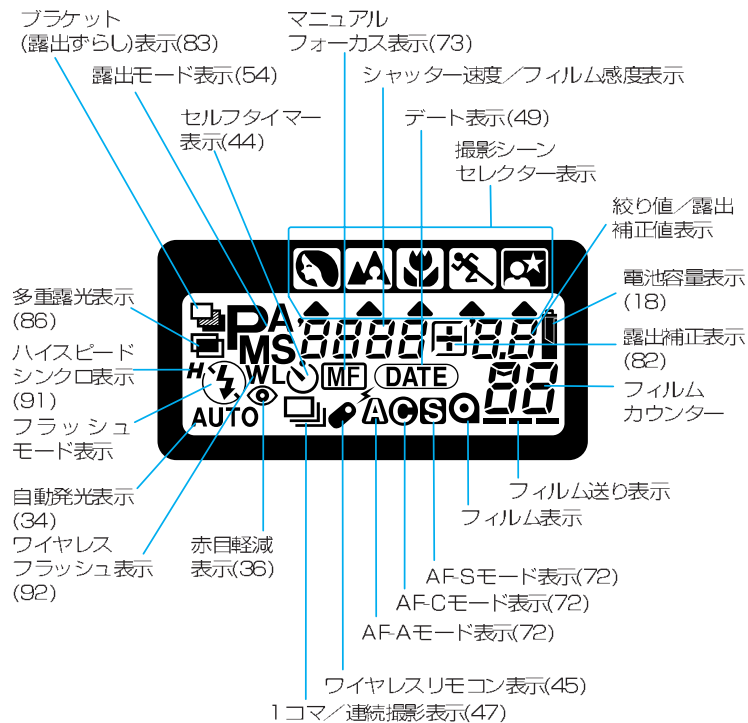
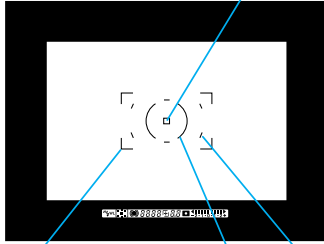
カメラの各部の名称や、レンズの交換の方法、フィルムの入れ方、電池の入れ方など、撮影の前に知っていただきたいことについてまとめています。
ご使用の前に一通り目を通してください。
このカメラは、すべてのαレンズ、α-Xiレンズが使用できます。Vレンズ、MDレンズ、MCレンズなどはご使用になれません。

このカメラには当社のボディ特性に適合するように設計された当社製のレンズおよびアクセサリーの使用をおすすめします。他社製品と組み合わせた場合の性能や、それによって生じた事故や故障につきましては保証いたしかねます。あらかじめご了承ください。

各部の名称

＊印のついたところは、直接手で触れないでください。
( )内は参照ページです。

カメラボディ

メインスイッチ(29)
オートロック
アクセサリーシュー
ボディ表示部
巻き上げモード
(セルフタイマー／
連続撮影／リモコン
選択)ボタン
ファインダー＊
アイセンサー＊
撮影シーン選択ボタン
アイピース
カップ
フィルム確認窓
リモート
レリーズ
ターミナル(117)
パノラマ切り替え
スイッチ(48)
ストラップ
取り付け部(15)
スポットAE
ロックボタン(77)
デート(日付・時刻写し込み)
ボタン(49)
裏ぶたロック確認窓(21)
途中巻き戻し
ボタン(23)
セレクト(修正位置選択)
ボタン(49)
裏ぶた開放ボタン(19)
スポットAF
ロックボタン(68)

ボディ表示部

※ここではすべての表示を点灯した状態で説明しています。

準備編

ファインダー表示部

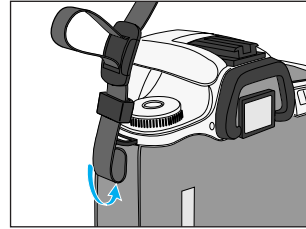
フォーカス表示 (●)

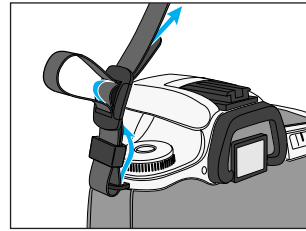
●	点灯	ピントが合っています。
(●)	点灯	ピントが合っています。被写体の動きに合わせてピント位置が変わります。
( )	点灯	ピント合わせの途中で、シャッターは切れません。
●	点滅	ピントが合わず、シャッターは切れません。

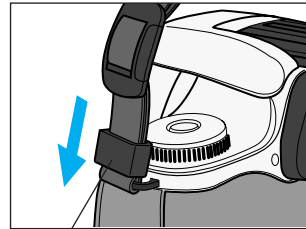
フラッシュ充電完了／調光確認表示 ϟ

ϟ 点灯(アイスタートONでファインダーをのぞいたとき)	フラッシュ撮影になります。
ϟ 点灯(シャッターボタン半押しでフラッシュが上がった後)	フラッシュの充電が完了しました。
ϟ 点滅(撮影後)	フラッシュ光が被写体に届きました。

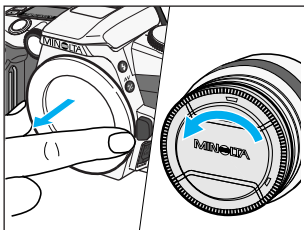
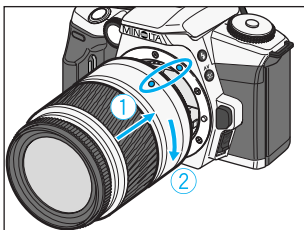
ストラップを取り付ける

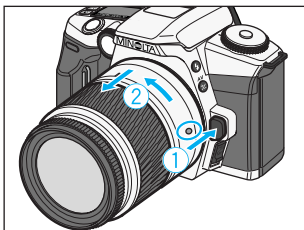
付属のストラップを取り付けると、持ち運びに便利です。また、カメラの落下などを防ぐことができます。

1. ストラップの先をストラップ取り付け部の下から通します。

● アイピースキャップの取り付いている側を、ファンクションダイヤル側に取り付けてください。

2. ストラップの止め具の内側を通して固定します。

● 反対側も同様に取り付けてください。

下まで押し付けて、ストラップを固定(ズリ落ちないように)します。

レンズを取り付ける・取り外す

このカメラは撮影シーンに応じてレンズ交換ができます。

1. カメラのボディキャップ、レンズの後キャップを外します。
   - カメラの内部、特にレンズ信号接点やミラーに触れたり傷をつけたりしないように、また内部に水滴・砂・ホコリが入らないように気を付けてください。

2. レンズとカメラの2つの赤い点を合わせてはめ込み①、レンズを軽くカメラに押しつけながらカチッと音がするまで時計方向に回します②。
   - 取り付けのときは、レンズ取り外しボタンを押さないでください。
   - レンズを斜めに差し込まないようにしてください。

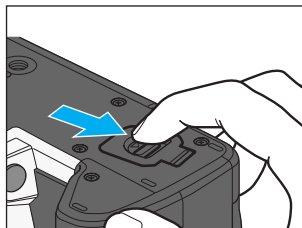
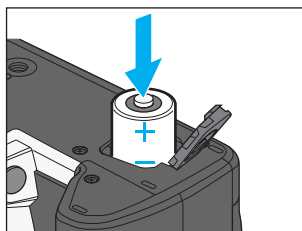
取り外す

レンズ取り外しボタンを押しながら①、レンズを矢印の方向に止まるまで回して取り外します②。

- 取り外した後カメラとレンズはキャップを付けて保管してください。

■ 画面外にある光が描写に影響するのを防ぐために、レンズフードの使用をおすすめします(115ページ参照)。

電池を入れる

このカメラは3Vリチウム電池CR2を2個使用します。お買い上げ時にすでに電池は入っています。

海外旅行などにお出かけの際には、予備の電池をお持ちください。

1. 電池室ふたの溝を矢印の方向へ引き、ふたを開けます。
   - 電池交換する場合は、メインスイッチをOFFにしてから行ってください。

2. 電池室ふたの＋／－表示にしたがって電池を入れます。

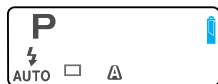
3. ふたを閉めます。

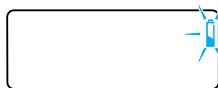
■ 電池室ふたを開けたまま、ふたを下にしてカメラを置かないでください。破損の原因となります。

■ 電池を交換するときに5分以上電池を入れない状態が続いたり、電池が完全に消耗した状態で保管していた場合は、日付・時刻がリセットされます。このような場合は日付・時刻を合わせ直してください(49ページ参照)。

■ 電池の取り扱いについては「取り扱い上の注意」(123ページ)をご覧ください。

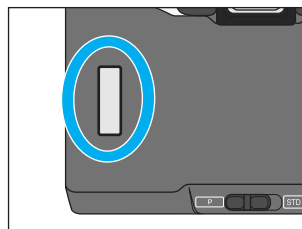
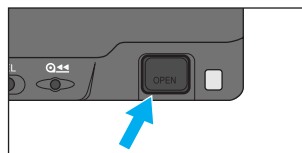
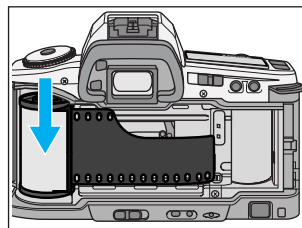
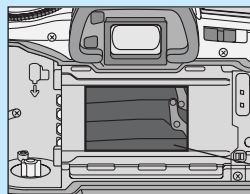
電池容量を確認する

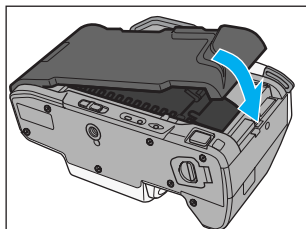
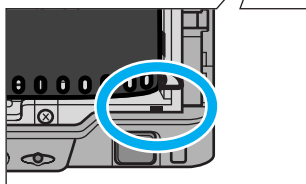
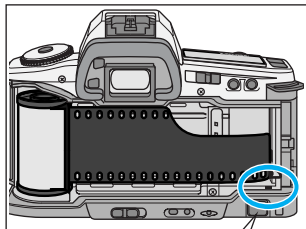
メインスイッチをONにしていると、電池の容量が常にボディ表示部に表示されます。

● 点灯
電池容量は十分です。

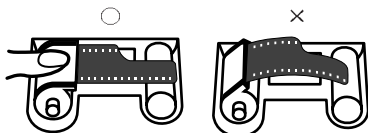
● 点滅
電池を交換することをおすすめします(この状態でも撮影はできます)。

● のみ点滅(他の表示はすべて消灯)
新しい電池と交換してください(シャッターは切れません)。
電池を入れない状態で電池室ふたを閉めたときも同様の表示になります。
そのまま5分以上経過すると表示が消えます。

■ メインスイッチをONにしても何も表示されないときは、電池の向きを確認してください。
■ ご購入時には新品電池を入れていますが、電池の特性や保管状況により一時的に が点滅することがあります。この場合はメインスイッチを何度か切ったり入れたりすると、電池容量が回復します。ご購入時の電池は出荷時に入れたものなので、通常購入される電池と比べて消耗が早くなることがあります。

フィルムを入れる

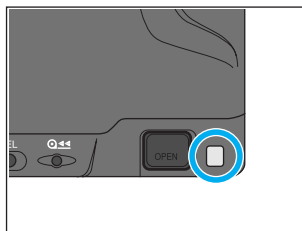
撮影の前にフィルムを入れます。フィルムの出し入れは、直射日光を避けて行ってください。
DXコード付フィルムを使用すると、フィルム感度が自動的に設定されます。

1. フィルム確認窓で、フィルムが入っていないことを確認します。

2. 裏ぶた開放ボタンを押し、裏ぶたを開けます。

3. 図のようにフィルムを入れます。

シャッター幕は非常に薄く精巧に作られていますので、**絶対に手などを触れないで**ください。故障の原因となります。お手入れの際に、シャッター幕へブロアーなどでエアーを直接吹きかけないでください。また、フィルムを装填、交換する際、シャッター幕に指やフィルム先端などで触れないでください。シャッター幕の破損・変形の恐れがあります。

準備編

4. フィルムの先端を赤いマークの範囲内に合わせます。

● フィルムが浮き上がらないようにパトローネ(フィルム容器)を押さえてください。

● フィルムの先端を入れ過ぎないようにしてください。先端が出過ぎた時は、パトローネの中に戻してください。

5. 裏ぶたを閉じます。

● フィルムが1コマ目まで自動的に巻き上げられた後、セーフティロックがかかります。

● 裏ぶたを閉じる時に、ストラップをはさまないように気を付けてください。

●フィルムが正しく巻き上げられていれば、フィルム感度と ⊙--1 が表示されます(フィルム感度は5秒間のみ表示)。

●メインスイッチがOFFの状態でフィルムを入れた場合は、フィルム感度と ⊙--1 が5秒間表示された後、表示が消えます。

●フィルムが正しく送られていない場合、フィルムカウンターの ⊙-0 が点滅します。このときは、裏ぶたを開けてフィルムを取り出し、もう一度入れ直してください。

●このカメラには、フィルムが入っているときに裏ぶた開放ボタンを押しても不用意に開かないセーフティロック機能があります。

●フィルムが正しく巻き上げられると、裏ぶたロック確認窓が赤くなります。この状態で裏ぶたを開けることはできません。フィルムを入れ替えたい場合は、必ず巻き戻してから裏ぶた開放ボタンを押してください。

準備編

■ ポラロイドインスタントリバーサルフィルムや赤外線フィルムは使用できません。

■ DXコードが付いていないフィルムを入れた場合、フィルム感度は直前に使用されていたフィルムの感度になります。フィルム感度は必要に応じて変更してお使いください(74ページ参照)。

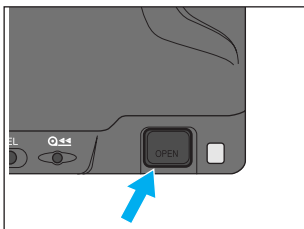
■ 36枚撮り以上のフィルム(72枚撮りや手巻きフィルム等)を使用された場合、40コマ目を撮影すると自動的に巻き戻しが始まります。このカメラで撮影できる枚数は40コマ迄です。

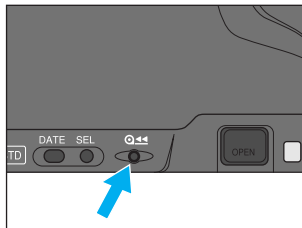
フィルムを取り出す

撮影したフィルムは現像するため、カメラから取り出します。撮影済みフィルムを長い期間放置すると、プリントの際に変色することがあります。撮影後は、できるだけすみやかに現像することをおすすめします。

1. 最後のコマを撮影すると、自動的に巻き戻しが始まります。
   - フィルムの巻き戻しが終わると ◎ が点滅します。◎ が点滅する前に裏ぶたを開けないでください。またロックがかかっている状態で無理にこじ開けないでください。

2. 裏ぶた開放ボタンを押し、裏ぶたを開けます。
   - 裏ぶたロック確認窓でセーフティロックが解除されていることを確認してから開けてください。

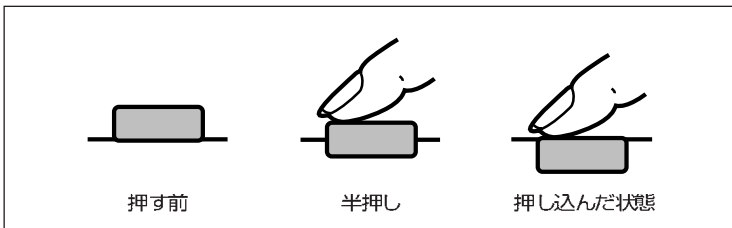
3. フィルムを取り出します。

■ 巻き戻し中にレンズのフォーカスリングを回さないでください。
■ 規定枚数以上撮影した場合、最後のコマは現像処理でカットされてしまうことがあります。
また、正しく日付や時刻の写し込みがされない場合があります。
■ 最後のコマを撮影しても自動的に巻き戻しが始まらないように、カメラの設定を変えることもできます(103ページ参照)。
■ 巻き戻した後のフィルムの先端が残るように(パトローネ内に巻き込まれてしまわないように)、カメラの設定を変えることもできます(104ページ参照)。

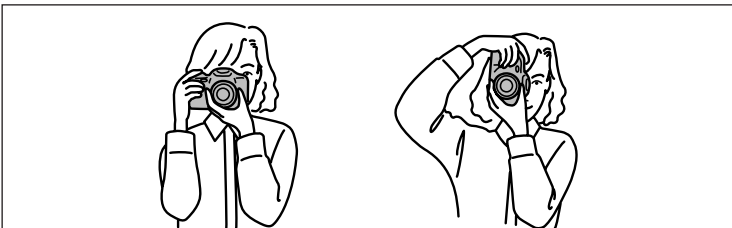
途中で取り出したいときは

1. ボディ背面の途中巻き戻しボタンを軽く押します。
   - 巻き戻しが始まります。
2. 巻き戻しが終わったら、フィルムを取り出します。

■ ボールペンなどの先の丸いもので軽く押します。先のとがったもので押すと、故障の原因になります。

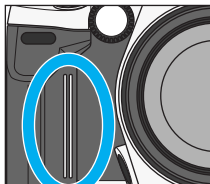
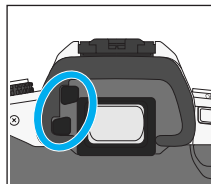
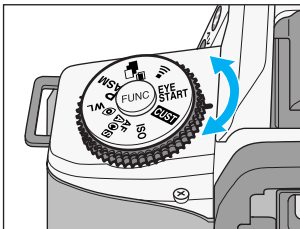
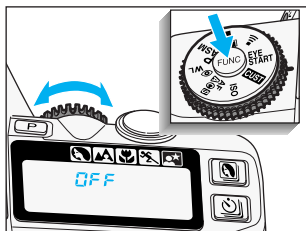
カメラを構える

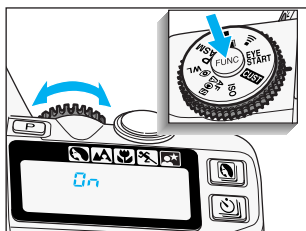
シャッターボタンの半押し

シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。この使用説明書ではここまで押すことを「半押し」と呼んでいます。

カメラの構え方

カメラが少しでも動くとぶれた写真になりますので、しっかりと構えて撮影してください。右手でカメラのグリップを持ち、脇を閉め、左手でレンズの下側をもって支えます。

■ 片足を軽く踏み出し、上半身を安定させて撮影してください。壁にもたれたり、机などに肘をついても効果があります。
■ 暗い場所でフラッシュを使用しないで撮影する場合や、望遠レンズを使う場合は、手ぶれが起こりやすくなります。このような場合は三脚などにカメラを固定して撮影してください。

アイスタートについて

このカメラは、構えるだけで撮影準備が整う「アイスタート」機能を搭載しています。メインスイッチをONにした後、グリップを握ってファインダーをのぞくと、自動的にピント合わせ、露出(シャッター速度や絞り値など)の決定を行います。ご購入時はONに設定されています。

グリップセンサー

アイスタートをOFFにする

1. ファンクションダイヤルをアイスタート EYE START の位置まで回します。

2. ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回し、ボディ表示部に OFF を表示させます。

アイスタートをONにする

OFF にする場合と同じ要領で On を選びます。

■ アイスタートは、グリップセンサーとファインダー左上のアイセンサーがカメラを構えていることを検知して作動します。カメラを三脚に取り付けグリップから指が離れているときや、手袋をしてグリップを握っているときは、アイスタートが作動しません。このような場合は、シャッターボタンを「半押し」してください(24ページ参照)。

■ グリップセンサーにさわらなくてもアイスタートが作動するように、カメラの設定を変更することができます(106ページ参照)。

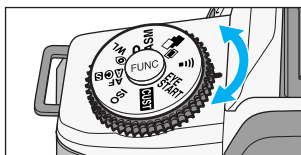
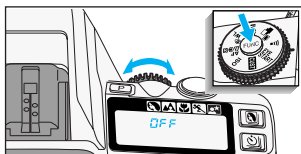
■ アイスタートの作動を止めることもできます。アイスタートの機能をOFFに設定した場合は、シャッターボタンを「半押し」にすると、ピントが合います。

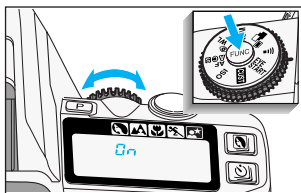
電子音について

ピントが合ったときやセルフタイマー作動時に電子音を発し、音でも作動確認できます。電子音を設定すると以下のような音が鳴ります。
ご購入時はONに設定されています。

作動	電子音
オートフォーカスでピントが合い固定された時	(ピピッ)
セルフタイマー作動中	(ピーピーピー‥ピピピピー)
IRリモコンRC-3(2S)使用時	(ピピピピー)
IRリモコンRC-3(●)使用時	(ピッ)

※IRリモコンRC-3は別売です。

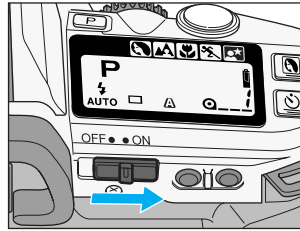
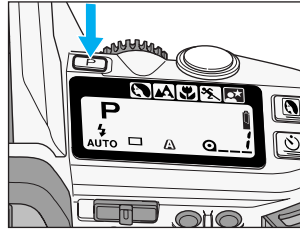
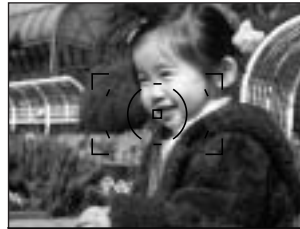
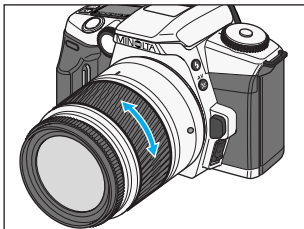
電子音をOFFにする

1. ファンクションダイヤルを •))) の位置まで回します。

2. ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回し、ボディ表示部に OFF を表示させます。

電子音をONにする

OFF にする場合と同じ要領で On を選びます。

【基本撮影編】

きれいな写真が簡単に撮れる全自動での撮影方法と、ポートレート、風景、記念写真、夜景など、シーンに合わせた撮影方法について説明しています。

おまかせPモード(全自動)で撮影する

おまかせPモードは、簡単な操作で気軽に撮影できます。

1. メインスイッチをONにします。

2. P (プログラムセットボタン)を押します。
   - ● 全自動の状態になります。設定を変えないかぎり、毎回押す必要はありません。

3. 写したいものが[ ](ワイドフォーカスフレーム)に入るようにカメラを構えます。

4. 構図を決めます。

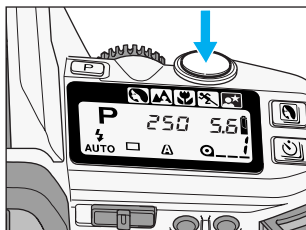
ズームレンズを使用している場合は、ズームリングを回して写したいものの大きさを決めます。

- アイスタートをON にしている場合は、自動的にピントが合います(25ページ参照)。
- アイスタートをONにしている場合でファインダー内に ϟ が点灯したときは、フラッシュが発光します(31ページ参照)。

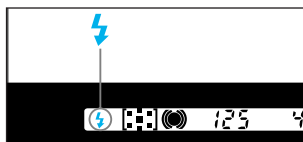
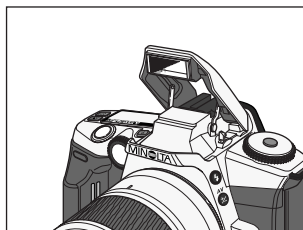
5. シャッターボタンを半押しします。

- アイスタートをOFF にしている場合は、この時点でピントが合います。
- ピントが合うとピピッと電子音が鳴ります（電子音設定ONの場合)。ピントを合わせたセンサーが一瞬赤く点灯します。
- アイスタートをOFFにしている場合で、ファインダー内に ϟ が点灯したときは、フラッシュが発光します(31ページ参照)。

6. シャッターボタンをゆっくり押し込みます。

- シャッターが切れます。

■ カスタム設定の8で、1以外に設定しているとフラッシュは自動発光にはなりません。
■ ファンクションダイヤルの設定が CUST になっていると、シャッターは切れ撮影できますが各種操作部材での機能変更はできません。

ϟ が点灯したら

前ページ「おまかせPモード(全自動)で撮影する」の手順4および手順5でファインダー内に ϟ が点灯するとフラッシュが発光します。以下の手順に従ってください。

アイスタート設定ONの場合

4. 構図を決めます。

- フラッシュが発光する場合、ϟ が点灯します。

5. シャッターボタンを半押しします。

- 内蔵フラッシュが上がります。充電が始まり ϟ が一旦消灯します。
- フラッシュの充電が完了すると ϟ が再び点灯します。

アイスタート設定OFFの場合

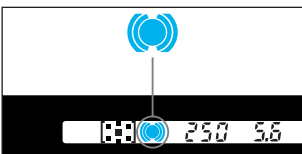
5. シャッターボタンを半押しします。

- 内蔵フラッシュが上がり、充電が始まります。
- フラッシュの充電が完了すると ϟ が点灯します。

6. シャッターボタンを押して撮影します。

- 撮影後は、ϟ が点滅してフラッシュ光が被写体に届いたことをお知らせします。
- 自動発光の場合は、フラッシュが必要なときのみ発光します。

ピント合わせについて

フォーカス表示

シャッターボタンを半押しすると、自動的にピントを合わせ、ファインダー内のフォーカス表示がピントの状態をお知らせします。ピントが合うと、ピピッと電子音が鳴ります。

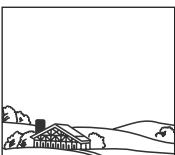
焦点距離の長いレンズやマクロレンズをご使用のとき、あるいは暗い被写体を撮影するときは、ピント精度を上げるためレンズの駆動が少し遅くなる場合があります。

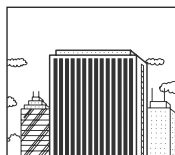
● 点灯	ピントが合っています。
(◉) 点灯	ピントが合っています。被写体の動きに合わせてピント位置が変わります。
( ) 点灯	ピント合わせの途中で、シャッターは切れません。
● 点滅	ピントが合わず、シャッターは切れません。

● が点滅したときは

- オートフォーカスの苦手なもの、またはレンズの最短撮影距離よりも近いものを撮ろうとしていないか確認してください。
- この状態でもシャッターが切れるようにしたいときは、マニュアルフォーカス(73ページ参照)を使用するか、103ページ(カスタム1参照)をご覧ください。

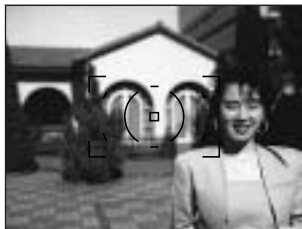
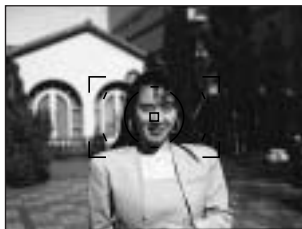
オートフォーカスの苦手な被写体

オートフォーカスは、被写体のコントラスト(明暗差)を利用してピントを合わせます。次のような被写体では、ピントが合いにくいことがあります。

青空や白壁などコントラスト(明暗差)のないもの

おりの中の動物など、距離の異なるものが混じっているとき

ビルの外観など、繰り返しパターンの連続するもの

太陽のように明るい被写体や、車のボディ、水面などきらきら輝いているもの

写したいものが画面の中央にないときは(フォーカスロック)

ピントを合わせたいものが[ ](ワイドフォーカスフレーム)に入らないまま撮影すると、ピントを合わせたいものがぼけてしまいます。このようなときは、次の手順でピントを固定(フォーカスロック)して撮影します。

1. ピントを合わせたいものに[ ](ワイドフォーカスフレーム)を合わせ、シャッターボタンを半押しします。

- ファインダー内の●が点灯し、ピントの合った部分のローカルフォーカスフレームが一瞬赤く点灯します。

2. シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい構図にします。

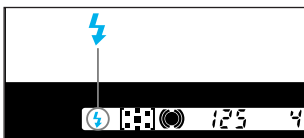
3. シャッターボタンを押し込みます。

- シャッターが切れます。

■ フォーカス表示● が点灯しないとき(被写体が動いているときなど)は、ピントが固定されないので、フォーカスロック撮影はできません。
■ カメラのスポットAFロックボタンでピントを固定(フォーカスロック撮影)することもできます(68ページ参照)。

内蔵フラッシュ撮影について

P (プログラムセットボタン)を押すと、フラッシュは自動発光⚡AUTO となります。フラッシュが必要な場合、シャッターボタンを半押しにすると内蔵フラッシュが自動的に上がり、フラッシュが発光します。最初からフラッシュが上がった状態では、必要な場合は自動的に発光します。使用後は、手で押し下げてください。

フラッシュ表示

ファインダー内のフラッシュ表示が、フラッシュの状態をお知らせします。

⚡ 点灯(アイスタートONでファインダーをのぞいたとき)	フラッシュ撮影になります。
⚡ 点灯(シャッターボタン半押しでフラッシュが上がった後)	フラッシュの充電が完了しました。
⚡ 点滅(撮影後)	フラッシュ光が被写体に届きました。

フラッシュ光の届く範囲

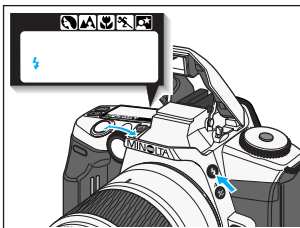
絞り値*	フィルム感度	
	ISO100	ISO400
F3.5	1.0m～3.4m	1.0m～6.8m
F4	1.0m～3.0m	1.0m～6.0m
F5.6	1.0m～2.1m	1.0m～4.3m

＊絞り値(52ページ参照)。

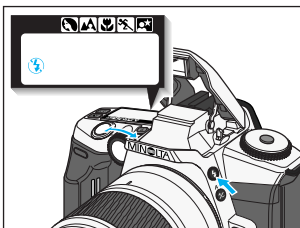
内蔵フラッシュの光が届く範囲には限度があり、絞り値*とフィルム感度によって異なります。以下の表を目安にしてください。

■ 撮影後 ⚡ が点滅しなかったときは、フラッシュ光が被写体に届いていません。上の表で、フラッシュ光の届く範囲を確認してください。
■ フラッシュ撮影の手順については、35ページをご覧ください。

フラッシュを必ず発光させたいとき(強制発光)

屋外で人物の顔に帽子の影ができているときや、蛍光灯のついた屋内で撮影するときなどは、フラッシュを発光させるとより美しい写真が撮れます。

1. ⚡ (フラッシュモードボタン)を押しながらダイヤルを回し、ボディ表示部に ⚡ を表示させます。
2. 撮影します。

フラッシュを発光させたくないとき(発光禁止)

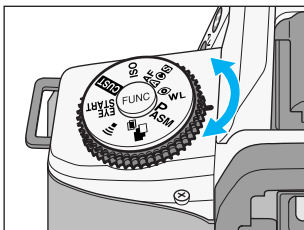
美術館などフラッシュ禁止の場所では、フラッシュを発光させずに撮影します。

1. ⚡ (フラッシュモードボタン)を押しながらダイヤルを回し、ボディ表示部に ⊘ を表示させます。
2. 撮影します。
   - フラッシュが上がっている場合でも発光しません。

■ 強制発光と発光禁止の設定は撮影後も同じ状態です。自動発光に戻すには、上記の操作で ⚡AUTO を表示します
■ 自動発光設定時、強制発光を設定しなくても、フラッシュモードボタンを押しながらシャッターボタンを押してフラッシュを必ず発光させることもできます。
■ Pモードや撮影シーン選択時でもフラッシュが上がっていれば常に発光するように、カメラの設定を変えることもできます(107ページ参照)。
■ 暗い場所での撮影で、発光禁止にして撮影するとシャッター速度が遅くなり、ぶれやすくなります。三脚の使用をおすすめします。

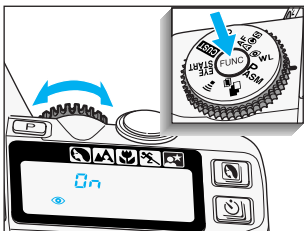
目が赤く写るのを軽減します(赤目軽減)

暗いところで人物を内蔵フラッシュで撮影すると、目が赤く写ることがあります。

ワンポイント

フラッシュの本発光の前に数回、小光量の発光が行われます。写される人に本発光が終わるまで動かないようにお伝えください。

1. ファンクションダイヤルを 👁WL の位置まで回します。

2. ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回し、ボディ表示部に 👁 On を表示させます。
   - ボタンから手を離すと通常の表示に戻り、ボディ表示部には 👁 が残ります。

3. 撮影します。

■ 撮影の直前に小光量のフラッシュを何回か発光させると、この現象を和らげることができます。

■ 発光が１回きりの通常のフラッシュ撮影に戻すには、同じ操作でボディ表示部に WL👁 OFFを表示させます。

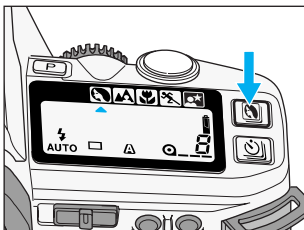
内蔵フラッシュ使用時の注意

内蔵フラッシュで撮影する場合は、フラッシュ光がレンズでさえぎられて、写真の下部に影ができることがあります。以下の点に注意して撮影してください。

- 被写体から１m以上離れて撮影してください。
- レンズフードは取り外してください。
- 下記のレンズで内蔵フラッシュ撮影するときは、広角側でフラッシュ光がレンズでさえぎられることがありますので、フラッシュ撮影には別売のプログラムフラッシュの使用をおすすめします。詳しくは「アフターサービスのご案内」に記載されている当社サービスセンター、サービスステーションにお問い合わせください。
  - ・AFズーム17-35mm F3.5G
  - ・AFズーム28-70mm F2.8G
  - ・AFズーム28-85mm F3.5-4.5
  - ・AFズーム28-135mm F4-4.5
- 下記のレンズ使用時は、フラッシュ光がレンズでさえぎられるため、内蔵フラッシュによる撮影はできません。
  - ・AFアポテレ300mm F2.8(ハイスピードタイプを含む)
  - ・AFアポテレ600mm F4(ハイスピードタイプを含む)
- このカメラの内蔵フラッシュは、焦点距離28mmの画角をカバーします。28mm未満の広角レンズで内蔵フラッシュ撮影をすると、写真の周辺まで光が届かず、暗くなることがあります。

ポートレートで撮影する

背景を程よくぼかし、人物をくっきりと立体的に引き立たせます。

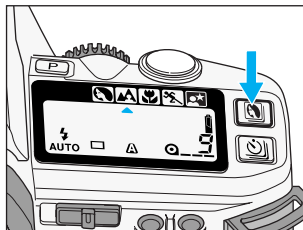
子供を撮るときは､かがんで撮りましょう。子供の目線に合わすとよりいきいきとした表情をとらえることができます。

1. (撮影シーン選択ボタン)を押し、の下に▲を表示させます。

2. 撮影します。

■ 逆光のときや顔に影ができているときは、フラッシュの使用をおすすめします(35ページ参照)。
■ 背景をぼかすには、ズームレンズの望遠側(または望遠レンズ)の方が効果があります。

記念撮影・風景で撮影する

手前の人物も、思い出に残したい背景も、両方ともくっきりと写します。風景写真もシャープに写せます。

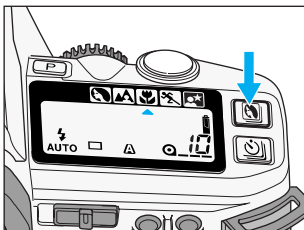
広角レンズまたはズームレンズ使用時は広角側で撮影しましょう。

1. (撮影シーン選択ボタン)を押し、の下に▲を表示させます。

2. 撮影します。

■ 記念写真で逆光のときは、フラッシュの使用をおすすめします。風景のみ撮影するときは、フラッシュ光が届かないのでフラッシュは使用しないでください。フラッシュモードボタンとダイヤルで発光禁止を選んでください(35ページ参照)。内蔵フラッシュ光の届く範囲については34ページをご覧ください。
■ 曇りの日などそれほど明るくないときは、手ぶれしやすいので、三脚の使用をおすすめします。
■ 夜景を背景に記念撮影する場合は、夜景ポートレートモードをお使いください。
■ 画面全体にピントを合わせるには、ズームレンズの広角側(または広角レンズ)の方が効果があります。

クローズアップで撮影する

小さい草花や昆虫などを近接撮影するときに使います。被写体全体をくっきりとシャープに写します。

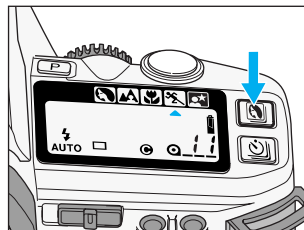
クローズアップ撮影では手ぶれが目立ちやすくなるので、三脚の使用をおすすめします。

1. (撮影シーン選択ボタン)を押し、の下に▲を表示させます。

2. 撮影します。
   - ピント精度を上げるためレンズの駆動が少し遅くなる場合があります。

■ 1m以内の距離では、写真の下部に影ができるため、内蔵フラッシュは使用しないでください(フラッシュモードボタンとダイヤルで発光禁止を選んでください)。1m以内のフラッシュ撮影には、別売のプログラムフラッシュをおすすめします。
■ レンズの最短撮影距離に注意して撮影してください。
■ より大きく撮影するには、AF マクロレンズをおすすめします。

スポーツで撮影する

速く動いているものの瞬間をシャープに写し止めます。

運動会の徒競走ではゴールの近くで待ち伏せし、ゴールした瞬間をねらって撮影しましょう。

1. (撮影シーン選択ボタン)を押し、の下に▲を表示させます。

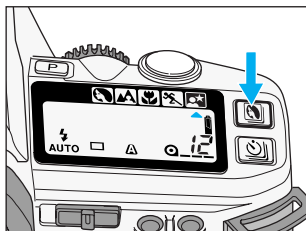
2. 撮影します。

■ なるべく高感度なフィルム(ISO400・800など)の使用をおすすめします。
■ フラッシュ光が届かない場合は、フラッシュは使用しないでください(フラッシュモードボタンとダイヤルで発光禁止を選んでください)。内蔵フラッシュ光の届く範囲については34ページをご覧ください。
■ 望遠レンズ使用時には、手ぶれしやすいので三脚の使用をおすすめします。
■ このモードでは、被写体の動きに応じて常にピント位置が変わるコンティニュアスAF になります。

夜景ポートレート・夜景で撮影する

夜景ポートレート撮影(人物＋夜景の場合)

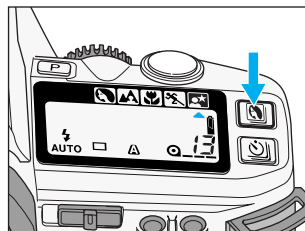
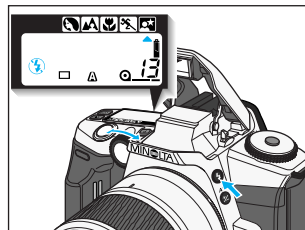
夜景や夕景を背景にして記念撮影するときに、手前の人物も背景もきれいに撮影します。

撮影される人物が動くと写真もぶれるので、動かないように注意してください。

1. (撮影シーン選択ボタン)を押し、 の下に▲を表示させます。

2. 撮影します。

■ シャッター速度が遅くなり、手ぶれしやすいので、三脚の使用をおすすめします。
■ なるべく高感度なフィルム(ISO400・800など)の使用をおすすめします。
■ フラッシュは自動発光 AUTO または強制発光 にしてください(35ページ参照)。

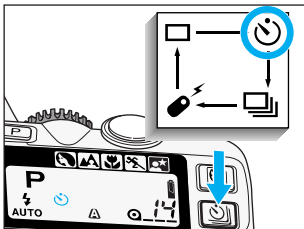
夜景撮影(夜景のみの場合)

フラッシュ光の届かない夜景をきれいに写します。

1. (撮影シーン選択ボタン)を押し、 の下に▲を表示させます。

2. (フラッシュモードボタン)を押しながらダイヤルを回し、ボディ表示部に を表示させます。

3. 撮影します。

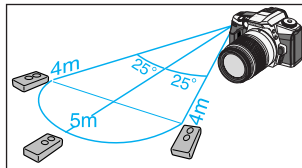
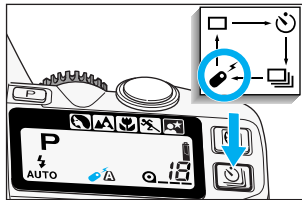
■ シャッター速度が遅くなり、手ぶれしやすいので、三脚の使用をおすすめします。
■ なるべく高感度なフィルム(ISO400・800など)の使用をおすすめします。
■ 明かりの少ない全体的に暗い夜景だと、写真がうまく仕上がらないことがあります。
■ ピントが合いにくいときは、明るい部分でピントを合わせてから撮影してください。

セルフタイマーを使う

シャッターボタンを押してから約10秒でシャッターが切れ撮影されます。

1. カメラを三脚などに固定します。
2. (巻き上げモードボタン)を押し、ボディ表示部に を表示させます。
3. シャッターボタンを半押しして、撮りたいものにピントを合わせます。
4. そのままゆっくりとシャッターボタンを押し込みます。
   - ● セルフタイマー作動中は、カメラ前面のセルフタイマーランプが点滅し、撮影直前には素早い点滅、そして点灯となり、撮影のタイミングをお知らせします。
   - ● 電子音設定がONの場合、撮影のタイミングを音でもお知らせします。(27ページ参照)

■ 撮影後、セルフタイマー撮影は解除されます。
■ カメラの真正面に立ってシャッターボタンを押さないでください。ピント合わせができなくなります。
■ 作動中のセルフタイマーを止めるには、メインスイッチをOFFにするか、もう一度 (巻き上げモードボタン)を押してください。
■ カメラの後ろに明るい光源や反射物などがあるときは、ファインダーから光が入るのを防ぐため、アイピースキャップを付けてください(116ページ参照)。

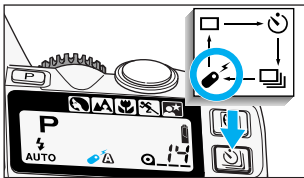
ワイヤレスリモコンを使う

別売のIRリモコンRC-3を使うと、離れたところから撮影できます。

1. カメラを三脚などに固定します。
2. (巻き上げモードボタン)を押し、ボディ表示部に を表示させます。
3. リモコンをカメラに向けて2sボタンか●ボタンを押して撮影します。
   - ● 2sボタンを押すと、カメラ前面のセルフタイマーランプが点滅し、約2秒後に撮影されます。
   - ● ●ボタンを押すと、セルフタイマーランプが1回点滅し、すぐ撮影されます。
   - ● 電子音設定ONの場合、撮影のタイミングを音でもお知らせします。(27ページ参照)
   - ● リモコンの作動範囲および作動距離は左図のようになります。

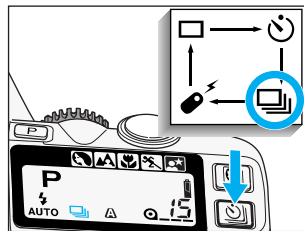
■ 撮影後もリモコン撮影は解除されません。そのまま続けて撮影できます。
■ 使用するレンズによって作動範囲が狭くなる場合があります。
■ 内蔵フラッシュが発光するときは、最初にリモコンのボタンを押したときにフラッシュが上がって充電が始まり、再度リモコンのボタンを押したときに撮影されます。
■ リモコン撮影を解除するには、メインスイッチをOFFにするか、もう一度巻き上げモードボタンを押し、別の設定にしてください。また、5分以上カメラやリモコンを操作しないと、自動的にリモコンモードは解除されます。
■ ワイヤレスリモコンモードで、シャッターボタンを押して撮影するとリモコン撮影は解除されます。
■ カメラの後ろに明るい光源や反射物などがあるときは、ファインダーから光が入るのを防ぐため、アイピースキャップを付けてください。
■ ワイヤレスリモコンモード設定時、シャッターボタンでピントを合わせると、リモコンのボタンを押してもピント合わせは行われません。

写したいものが画面の中央にないときは

IRリモコンRC-3を使って撮影する場合に、被写体が画面中央にないときは以下の手順で撮影してください。

1. カメラを三脚などに固定します。
2. ⏲(巻き上げモードボタン)を押し、ボディ表示部に リモコン を表示させます。
3. ピントを合わせたいものに［ ］ワイドフォーカスフレームを合わせ、シャッターボタンを半押しします。
4. ファインダー内のフォーカス表示●が点灯したらシャッターボタンから指を離します。
   - シャッターボタンから指を離してもピントおよび露出は固定されています。
   - ボディ表示部にも測光値が表示されます。
5. 撮りたい構図に変え、リモコンで撮影します
   - リモコンの2Sボタンまたは●ボタンを押して撮影します。

■ 撮影後もピントは固定されています。ピント位置を変えて撮影する場合は、上記手順3～5を繰り返してください。
■ AFモードがコンティニュアスAFの場合は、ピントおよび露出が固定されませんので、この方法での撮影はできません。
■ シャッターボタンの代わりに、スポットAFロックボタンを押しても上記と同じように撮影できます。

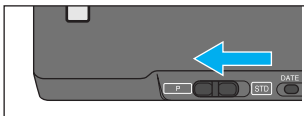
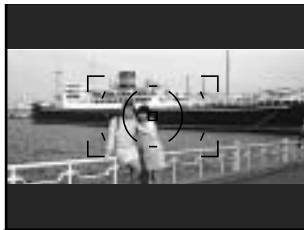
連続撮影する

シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影します。

1. ⏲(巻き上げモードボタン)を押し、ボディ表示部に ⧉ を表示させます。
2. シャッターボタンを押し続けて撮影します。
   - 押し続けている間、連続撮影されます。

■ 次の条件のとき1秒に約3コマの速さで撮影できます。
ワンショットAFまたはマニュアルフォーカスで、シャッター速度が1/250秒以上、日付・時刻の写し込みなし、フラッシュ発光なし、新品電池使用。
■ 連続撮影を終えるときは、⏲(巻き上げモードボタン)を押して、ボディ表示部に□を表示してください。
■ 内蔵フラッシュが発光するときは、フラッシュの充電が完了してから撮影されます。
■ AFモードをA(自動切り替え)またはC(コンティニュアス)にしている場合、シャッターボタンを押し続けている間は、被写体までの距離が変わったときはその度ピントを合わせ直します。
ピントが合うまでシャッターは切れませんので、連続撮影の速さを優先したいときは、カメラをレリーズ優先(103ページ参照)またはマニュアルフォーカス(73ページ参照)にしてください。
■ AFズームXiレンズ、またはAFパワーズームレンズ使用時は、連続撮影中のズームはできません。

パノラマ撮影する

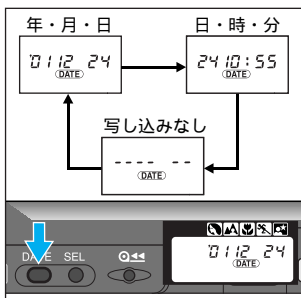
撮影の途中で、標準撮影とパノラマ撮影を切り替えることができます。

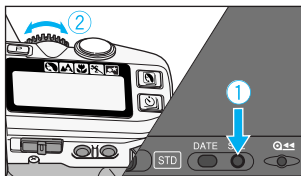
縦位置で撮影しても楽しい写真が撮影できます。

1. パノラマ切り替えスイッチをパノラマ側 P にします。
   - ファインダーがパノラマ用に切り替わります。
2. 構図を決めて撮影します。

■ 標準撮影に戻すときは、パノラマ切り替えスイッチを STD 側にします。
■ パノラマ切り替えスイッチは止まるまで確実に操作してください。
■ パノラマ撮影するときは、画面の周辺に少し余裕を持たせてください。プリントされる範囲が、実際に撮影した画面よりもやや狭くなることがあります。
■ 広角レンズで撮影すると、パノラマらしさがより効果的に表現されます。
■ パノラマ撮影したフィルムには、下図のように上下に露光されない部分があります。

■ パノラマ撮影してもフィルムの撮影枚数は変わりません。
■ パノラマ写真の一般的なプリントサイズは、89mm×254mm(標準)です。
■ パノラマ撮影したフィルムを現像・プリントに出すときは、「パノラマ仕上げ」または「パノラマプリント」と指定してください。通常仕上げまたは通常サイズでプリントすると、上下に黒い帯が写し込まれます。

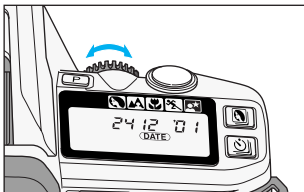
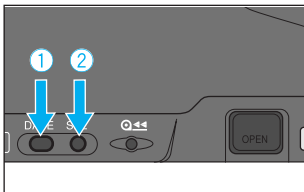
日付・時刻を写し込む

写し込みするには

撮影時の日付や時刻を写真の左下に写し込むことができます。
日付・時刻表示用の電源は、カメラ本体の電池を兼用しています。

デートボタンを押して、写し込みたい表示を選び、シャッターボタンを半押しします。
- デートボタンを押すたびに左図の順で表示が変わります。ボールペンなど先の丸いもので軽く押します。先のとがったもので押すと、故障の原因になります。
- ボディ表示部に DATE を表示し、日付または時刻が写し込まれることをお知らせします。

日付・時刻を修正したいときは

1. デートボタンを押します。
2. セレクトボタンを押し、変更したい項目を点滅させ①ダイヤル②を回し、数値を修正します。
   - セレクトボタンを押すたびに、年→月→日→時→分が点滅します。
   - 他の数値も修正が必要であればこの操作を繰り返します。
3. シャッターボタンを半押しします。
   - 撮影状態表示となります。

基本撮影編

年・月・日の並び方を変えるには

1. デートボタンを押します①。
2. セレクトボタンを3秒間押し続けます②。
   - 年月日の数値が点滅します。
3. ダイヤルを回し、希望する並びに変更します。
   - 年·月·日 → 月·日·年 → 日·月·年
4. シャッターボタンを半押しします。
   - 撮影状態の表示になります。

■ 2039年までの日付が記憶されています。
■ パノラマ写真にも写し込むことができます。
■ 写し込み位置に明るい色(空や白い壁など)があると、写し込んだ文字が読みにくくなることがあります。
■ 写し込みは、フィルムを巻き上げるときに行われます。このため、規定枚数を越えて撮影した場合、最後のコマでは正しく写し込まれない場合があります。
■ 日付写し込み機能は0～50℃の範囲でご使用ください。それ以外では正常に機能しないことがあります。
■ 電池交換の際5分以上電池を入れない状態が続いたり、電池が完全に消耗した状態で保管していた場合は、日付・時刻がリセットされます。このような場合は日付・時刻を合わせ直してください。
■ 秒を時報に合わせるときは、分を1分前の数値に合わせ、時報とともにダイヤルを回し設定分に合わせます。
■ 日付・時刻が設定されていない場合、メインスイッチをONにするとボディ表示部に日付の数値または ---- -- が点滅してお知らせします。日付、時刻を再設定してください。

【応用撮影編】

露出とピントを理解して露出モードやフォーカスモードを変更する撮影方法を説明しています。より創造的で高度な表現をお楽しみください。

露出とは

カメラは、レンズから通ってきた光を一定時間フィルムに当て、露光する仕組みになっています。フィルム面に当たる光の量を「露出」といい、光の量を調節するのが「絞り」と「シャッター」です。
絞りは、レンズを通る光の量を調節します。シャッターは、フィルムに光を当てる時間を調節します。
絞りを開く(絞り値を小さくする)と光の量は多く、絞る(絞り値を大きくする)と少なくなります。
シャッター速度が速くなると光の当たる時間が短くなり、光の量が少なくなります。シャッター速度が遅くなると光の当たる時間が長くなり、光の量が多くなります。
適切な光の量を「適正露出」といいます。光の量が足りないときは、露出がアンダーとなり、写真の仕上りが暗くなります。光の量が多すぎるときは、露出オーバーとなり、写真が白っぽくなります。

シャッター速度：1/1000秒
絞り値：2.8

シャッター速度：1/60秒
絞り値：11

上のふたつの写真は、適切な光がフィルムに当たって撮影された「適正露出」の写真です。左の写真はシャッター速度が速く、絞りを開いて撮影しています。右の写真は絞り込んで撮影している分だけ、シャッター速度が遅くなっています。
どちらも「適正露出」で撮影した写真ですが、撮影者がシャッター速度や絞りを調節することで、さまざまな描写を表現することができます。

絞りの効果

左下の写真は、絞りを開けて(F3.5、4など)撮影しています。ピントが被写体のみに合っていて背景はボケており、人物がくっきり浮き出た描写になっています(ポートレート撮影に最適)。
右下の写真は、絞りを絞って(F16、22など)撮影しています。被写体だけではなくその前後の広い範囲にピントの合った描写となっています(大勢の人で撮影する記念撮影などに最適)。

絞りを開けたとき

絞りを絞り込んだとき

このように絞りは撮影目的に合わせて、ピントの合う範囲を調整します。

シャッター速度の効果

左下の写真は、速いシャッター速度(1/500秒、1/1000秒など)で撮影しています。滝の水しぶきが止まって見え、その様子がよく分かります。
右下の写真は、遅いシャッター速度1/15秒、1/30秒)で撮影しています。水の流れがよく表現されています。

シャッター速度が速いとき

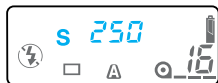
シャッター速度が遅いとき

このように動いているものの描写は、カメラのシャッター速度で調節できます。

露出モードについて

このカメラには、撮影目的に合わせた露出を得るための露出モードが4つあります。設定した露出モードは、ボディ表示部で確認することができます。

A(絞り優先)モード(55ページ参照)

撮影者が希望の絞り値を決めることができます(シャッター速度はカメラが自動的に決めます)。
ポートレート撮影など、絞りの効果を生かして背景のぼけ具合をコントロールしたいときなどに使います。

S(シャッター速度優先)モード(59ページ参照)

撮影者が希望のシャッター速度を決めることができます(絞り値はカメラが自動的に決めます)。
スポーツ撮影など、シャッター速度の効果を生かして動くものを止めて表現したり、逆に流動感を表現したいときなどに使います。

M(マニュアル)モード(62ページ参照)

撮影者が絞り値とシャッター速度の両方を決めます。絞り値とシャッター速度の両方を固定したままで撮影したいときや、単体の露出計で測った値で撮影するときに使います。

P(プログラム)モード

撮影シーンに適した絞り値とシャッター速度が自動的に決まります。シャッターチャンスに専念することができ、スナップ写真など一般撮影に最適です。

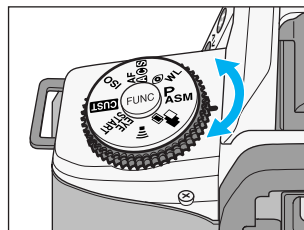
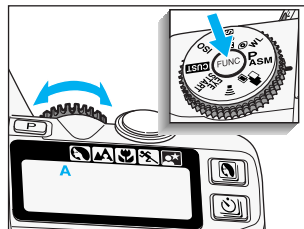
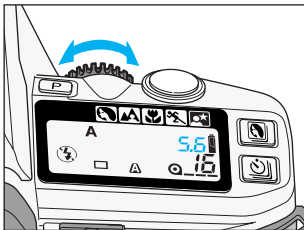
- プログラムセットボタンを押すとPモードになります。Pモードでは、絞り値とシャッター速度は自動的に決まるので、特に何も設定せずにそのまま撮影できます(29〜31ページ参照)。
- Pモードのままで、一時的に絞り値とシャッター速度の組み合わせを変える(PA/PSシフト)こともできます(65ページ参照)。

A(絞り優先)モードで撮影する

絞りの効果を得るときに使います。
撮影者が希望の絞り値を決めます。シャッター速度はカメラが自動的に決めます。

絞りを開け
ポートレート風に撮影

ワンポイント

広角レンズほどピントの合って見える範囲が広くなり、望遠レンズほど狭くなります。カメラから被写体までの距離が短いほど、ピントの合って見える範囲が狭くなります。

1. ファンクションダイヤルをPASMの位置まで回します。

2. ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回し、ボディ表示部にAを表示させます。

3. ダイヤルを回し、希望の絞り値を選びます。

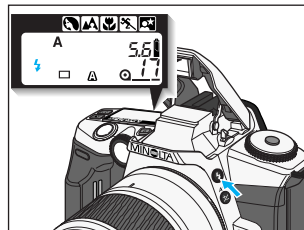
- 設定できる絞り値は、レンズによって異なります。

4. 撮影します。

シャッター速度が4000または30"で点滅している場合は、カメラの制御範囲を越えているため、露出オーバー(フィルムが感光しすぎて白っぽくなる状態)または露出アンダー(フィルムが感光せず黒っぽくなる状態)の写真になります。点滅しなくなるまで絞り値を変更してください。

■ Aモード撮影を終了したい時は、上記の操作を繰り返して表示部にPを表示させるか、プログラムセットボタンを押します。
■ 絞り値を変えてもファインダーでの見え方は変わりません。ぼけ具合を確認したいときは、プレビューボタンを押します(58ページ参照)。

Aモードフラッシュ撮影

A(絞り優先)モードでは、フラッシュは自動発光しません。

1. ⚡(フラッシュモードボタン)を押します。

- フラッシュが上がり、ボディ表示部には⚡が表示されます。

2. 撮影します。

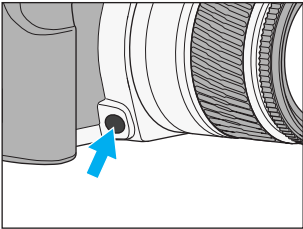
シャッター速度が125で点滅している場合は、カメラの制御範囲を越えているため、露出オーバー(フィルムが感光しすぎて白っぽくなる状態)の写真になります。シャッター速度が点滅しなくなるまで、絞り値を変更してください。

■ シャッター速度は自動的に1/125秒以下になります。
■ 絞り値を大きくする(絞りを絞り込む)と、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。絞り値を小さめにして(開放側で)撮影することをおすすめします。
■ フラッシュを使わないときは、フラッシュを手で押し下げてください。

S(シャッター速度優先)モードで撮影する

ぼけ具合を確認する(プレビュー)

プレビューボタンを押すと、設定されている絞り値まで絞り込まれ、撮影する前にファインダー上で被写体(前景や背景)のおおよそのボケ具合が確認できます。

通常、ファインダーは絞りが一番開いた状態で像が見えています。絞りを絞るとボケ具合が変わるため、ファインダー(絞り開放状態)で見えるボケ具合と実際の撮影した写真のボケ具合は異なります。撮影前に実際の絞り値でのボケ具合を確認するのがプレビュー機能です。

1. ピントを合わせた後、プレビューボタンを押します。

● 押している間、設定されている絞り値まで絞りが絞り込まれます。

2. ファインダーでぼけ具合を確認します。

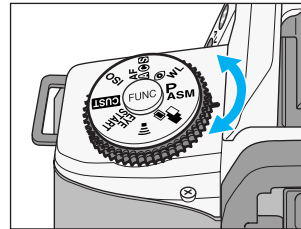
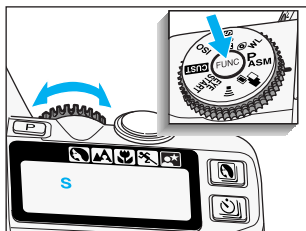
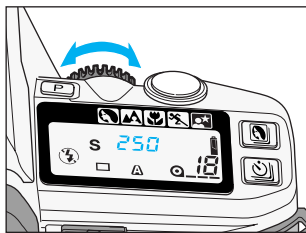
■ 絞りが絞り込まれるため、ファインダー内の画像は暗くなります。
■ プレビュー中は絞り値を変更できません。
■ シャッターボタンを半押ししてファインダー内に ● が点灯した状態でプレビューボタンを押した場合は、そのままシャッターボタンを押し込んで撮影することができます。
■ プレビューボタンを離すとプレビューは解除されます。
■ フォーカスホールドボタン付きのレンズ使用時には、カスタム設定により、フォーカスホールドボタンでプレビューを行なうことができます(105ページ参照)。
■ プレビュー中にレンズのフォーカスリングを回さないでください。

シャッター速度による効果を得るときに使います。
撮影者が希望のシャッター速度を決めます。絞り値はカメラが自動的に決めます。

手ぶれを目立たせないシャッター速度の目安は、レンズの焦点距離分の1秒です(200mmのレンズを装着している場合は、1/250秒が目安となります)。
シャッター速度が遅くなるときは三脚をお使いください。

シャッター速度を遅くし、水の流れを表現

1. ファンクションダイヤルをPASMの位置まで回します。

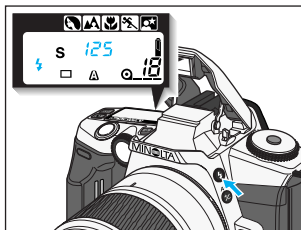
応用撮影編

2. ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回し、ボディ表示部にSを表示させます。

3. ダイヤルを回し、希望のシャッター速度を選びます。
   - 設定できるシャッター速度は1/4000秒〜30秒です。

4. 撮影します。

絞り値が点滅している場合は、カメラの制御範囲を越えているため、露出オーバーまたは露出アンダーの写真になります。絞り値が点滅しなくなるまで、シャッター速度を変更してください。

■ Sモード撮影を終了したい時は、上記の操作を繰り返して表示部にPを表示させるか、プログラムセットボタンを押します。
■ 表示部の60、125といった数字は、1/60秒、1/125秒を表わします。2"、4"など「"」の表示が出ている場合は、2秒、4秒を表わします。

Sモードフラッシュ撮影

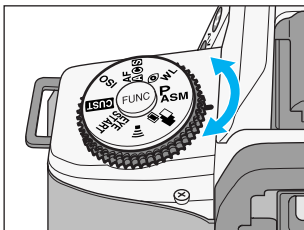
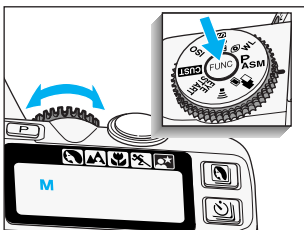
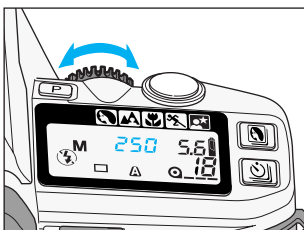
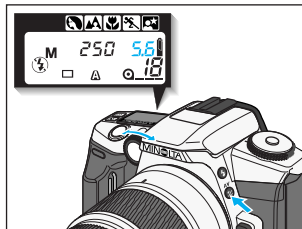
S(シャッター速度優先)モードでは、フラッシュは自動発光しません。

1. (フラッシュモードボタン)を押します。
   - フラッシュが上がり、ボディ表示部には が表示されます。

2. 撮影します。

- シャッター速度を遅くして絞りが絞り込まれる(絞り値が大きくなる)と、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。ある程度の速さのシャッター速度で撮影することをおすすめします。(内蔵フラッシュ光の届く範囲は34ページ、プログラムフラッシュ光の届く範囲はフラッシュの使用説明書をご覧下さい。)

■ 1/125秒より速いシャッター速度は選べません。別売りのプログラムフラッシュ5600HS(D)、5400HS、3600HS(D)を使えば、これより速いシャッター速度を選ぶことができます(91ページ参照)。
■ フラッシュを使わないときは、フラッシュを手で押し下げてください。

M(マニュアル)モードで撮影する

絞り値とシャッター速度の両方を、自由に選ぶことができます。露出計を使って撮影するときなどに便利です。

1. ファンクションダイヤルをPASMの位置まで回します。

2. ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回し、ボディ表示部にMを表示させます。

3. ダイヤルを回し、希望のシャッター速度を選びます。
   - 設定できるシャッター速度は1/4000秒〜30秒およびバルブ(79ページ参照)です。

4. 露出補正ボタンを押しながらダイヤルを回し、希望の絞り値を選びます。
   - 設定できる絞り値は、レンズによって異なります。
5. ファインダーに表示される測光インジケーターを参考に、シャッター速度と絞り値を調節します。

Mモード時の測光インジケーター

ファインダーの下側に測光インジケーターがあります。カメラが測光した露出値を基準(0)に、撮影者が選んでいる絞りとシャッタースピードによる露出値が表示されます。

−2・1・0・1・2＋

適正露出です。

−2・1・0・1・2＋

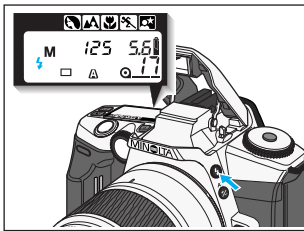
＋1.5段露出オーバーです。
シャッター速度を速くするまたは絞りを絞ります。

−1.5段露出アンダーです。
シャッター速度を遅くするまたは絞りを開きます。

＋2.0段以上露出オーバーです。
露出値の差が±2段を越えると、◀または▶が点灯(±2.5段)・点滅(±3.0段以上)します。

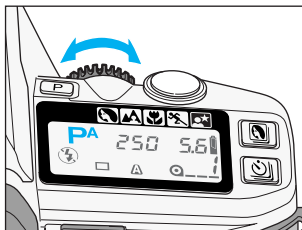
■ Mモードでは、露出補正を設定していても一時的にキャンセルされます。ほかの露出モードに変更すると前回設定された露出補正値に戻ります。

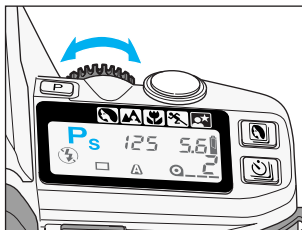
Mモードフラッシュ撮影

M(マニュアル)モードでは、フラッシュは自動発光しません。

1. ⚡(フラッシュモードボタン)を押します。
   - フラッシュが上がり、ボディ表示部には⚡が表示されます。
2. 撮影します。

■ 1/125秒より速いシャッター速度は選べません。別売りのプログラムフラッシュ5600HS(D)、5400HS、3600HS(D)を使えば、これより速いシャッター速度を選ぶことができます(91ページ参照)。
■ 絞りを絞り込むと、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。絞り値を開放側で撮影することをおすすめします。
■ フラッシュを使わないときは、フラッシュを手で押し下げてください。

P(プログラム)モードでPA/PSシフト撮影する

Pモードのままで、一時的に絞り値またはシャッター速度を変更することができます。絞り値の変更をPAシフト、シャッター速度の変更をPSシフトと呼びます。
この機能は、カスタム設定(カスタム8-2または3に設定・・107ページ参照)とフラッシュ非発光状態(フラッシュが下がっているとき)のときに使用できます。

PAシフトの場合(カスタム8-2に設定)

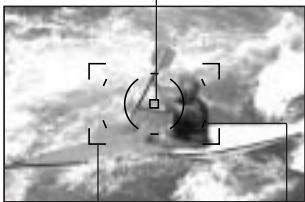
- シャッターボタンを半押ししてボディ表示部に測光値(絞り値とシャッター速度)を表示させ、ダイヤルを回してPAを表示させて、希望の絞り値を設定します。
- シャッター速度は自動的に決まります。

PSシフトの場合(カスタム8-3に設定)

- シャッターボタンを半押ししてボディ表示部に測光値(絞り値とシャッター速度)を表示させ、ダイヤルを回してPSを表示させて、希望のシャッター速度を設定します。
- 絞り値は自動的に決まります。

■ 絞り値およびシャッター速度は1/2段ごとに変わります。
■ PA、PSモードではフラッシュは使用できません。
■ ファンクションボタンを押すとPモードに戻ります。フラッシュをONにするか、測光値が消えてから5秒経過すると、同様にPモードに戻ります。

ピントの位置を確認(フォーカスフレーム)する

このカメラでは、ピントを合わせる範囲が広いワイドフォーカスフレームを採用しています。

スポットフォーカスフレーム

ワイドフォーカスフレーム
ローカルフォーカスフレーム

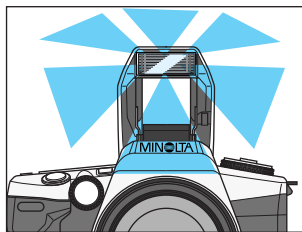
ワイドフォーカスフレーム内には7つのセンサー(スポットフォーカスフレームと6個のローカルフォーカスフレーム)があります。
被写体の位置に応じて、7つのセンサーのうちのどれかが働き、ピントを合わせます。

シャッターボタンを半押しすると、電子音(ピピッ)と同時にピントが合った部分のローカルフォーカスフレームが一瞬赤く点灯します。

ワイドフォーカスフレーム使用時のフォーカス位置表示は、下図のように7つのセンサー全てが表示状態となります。

フォーカス位置表示

- ピントが合ったときセンサー(スポットフォーカスフレームまたはローカルフォーカスフレーム)が一瞬赤く点灯しますが、その時間を変えることができます(111ページ参照)。
- AF モードがC(コンティニュアス)になっているとき(71ページ)は、ローカルフォーカスフレームは点灯しません。また、連続撮影時や被写体が動いているとき、シャッターボタンを一気に押し込んだときなども、点灯しないことがあります。

ピント合わせのためにフラッシュが光ります(AF補助光)

暗いところでフラッシュ撮影をしていると、シャッターボタンを半押ししたときに、フラッシュが光ることがあります。
これは、オートフォーカスでピントを合わせやすくするためのAF補助光です。

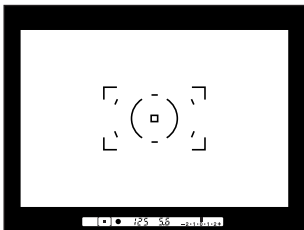
- スポットAFロックボタンを押したときにも、AF補助光が光ることがあります。
- 補助光の届く範囲は、約1～5mです(当社試験条件による)。
- 内蔵フラッシュを発光禁止 にしているときは、AF補助光は発光しません。
- 被写体が動いているとき(コンティニュアスAFに設定しているとき)は、補助光は発光しません。
- プログラムフラッシュを取り付けているときは、プログラムフラッシュのAF補助光が発光します。
- レンズの焦点距離が300mm以上のときは、AF補助光は発光しないことがあります。AFマクロズーム3×－1×使用時にも、AF補助光は発光しません。
- このAF補助光を発光させないようにすることもできます(109ページ参照)。

ねらいの部分にピントを合わせる(スポットフォーカスフレーム)

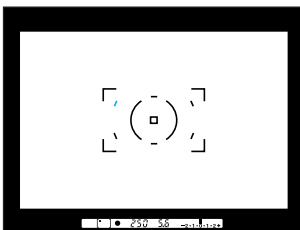
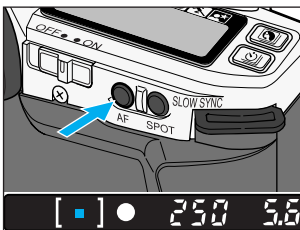
通常はワイドフォーカスフレームでピントを合わせます。より厳密にピントを合わせる位置を決めたいときは、画面中心部のスポットフォーカスフレームでピントを合わせます。

1. ピントを合わせたいものにスポットフォーカスフレーム□を合わせます。

2. スポットAFロックボタンを押します。
   - スポットフォーカスフレームの位置にあるものにピントが固定され、スポットフォーカスフレームが一瞬赤く点灯します。そのまま構図を変えてもピント位置は変わりません。

3. スポットAFロックボタンを押したまま、シャッターボタンを押し込んで撮影します。
   - スポットAFボタンから指を離すと、通常のフォーカスエリアに戻ります。

ローカルフォーカスフレームを選択する

カメラを三脚などに固定して構図を変更しにくいときに、被写体の特定部分により厳密にピント合わせを行いたいときは、ローカルフォーカスフレームを選択することができます。

一時的にローカルフォーカスフレームを選択する

フォーカス位置表示は選択したセンサーの位置のみ表示します。

1. スポットAFロックボタンを押します。

2. スポットAFロックボタンを押したまま、ダイヤルを回して希望するローカルフォーカスフレームを選択します。
   - ダイヤルを回すと選択されたローカルフォーカスフレームが、一瞬赤く点灯して、ピントが合います。

3. スポットAFロックボタンを押したまま、シャッターボタンを押し込んで撮影します。
   - スポットAFロックボタンから指を離すとワイドフォーカスフレームに戻ります。

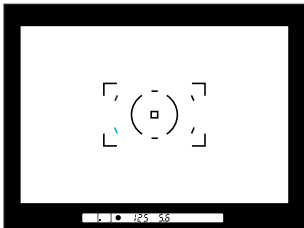
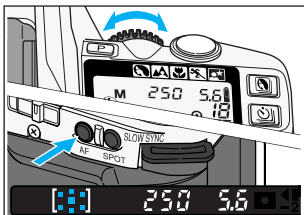
- ■ スポットAFロックボタンを押し続けると、同じピント位置で連続して撮影できます。
- ■ シャッターボタンを押して、内蔵フラッシュが自動的に上がった場合、ピント位置が変わる場合があります。フラッシュが上がった状態で再度スポットAFロックボタンを押し続けてください。

スポットAFロックボタン押し続けずにローカルフォーカスフレーム選択をする

カスタム設定をすると、スポットAFロックボタンを押し続けなくてもローカルフォーカスフレーム選択ができます。

1. カスタム設定9-2に設定します。(設定方法は、99ページ参照)

2. スポットAFロックボタンを押したまま、ダイヤルを回して希望するローカルフォーカスフレームを選択します。
   - スポットAFロックボタンから指を離しても、選択したローカルフォーカスフレームは維持されます。

3. シャッターボタンを押し込んで撮影します。
   - 撮影後も選択されたローカルフォーカスフレームは維持されます。

- ワイドフォーカスフレームに戻す場合は、スポットAFロックボタンを押しながらダイヤルを回し、左図の位置のローカルフォーカスフレームから、さらにダイヤルを1クリック右に回してください。

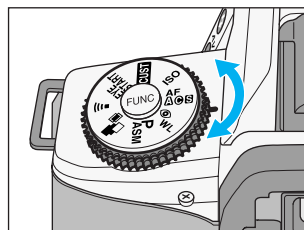
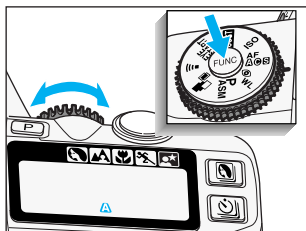
■ 被写体が動いているとき(ファインダー表示(◉)が点灯しているとき)も、ピントを固定することができます。
■ AFレフレックス500mmF8およびAFパワーズーム35-80mmF4-5.6を使用しているときは、中央のスポットフォーカスフレームしか選択できません。
■ スポットAFロックボタンを押すと、ピントと同時に露出(絞り値とシャッター速度)も固定されます。スポットAFロックボタンを押している間は、7つのセンサーのうち、1つのセンサーだけが働きます。

写したいものが動いているときは(AFモードの切り替え)

このカメラには、3種類のAF(オートフォーカス)モードがあり、撮影者の意図や使い方に応じて切り替えることができます。

AF制御自動切り替え：あらゆる被写体に対して有効です。
被写体の動きに応じて、コンティニュアスAFとワンショットAFとが自動的に切り替わります。
被写体が動いているときは、シャッターボタンを半押ししている間ピントを合わせ続けます。被写体が静止しているときは、シャッターボタン半押しで一度だけピントを合わせ、そこでピント位置を固定(フォーカスロック)します。

コンティニュアスAF：動く被写体を撮影するのに便利です。
シャッターボタンを半押ししている間ピントを合わせ続けます。

ワンショットAF：静止している被写体を撮影するのに適しています。
シャッターボタン半押しで一度だけピントを合わせ、そこで固定(フォーカスロック)します。

1. ファンクションダイヤルをAFモード AF A◎S の位置まで回します。

2. ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回し、AFモードを選択します。

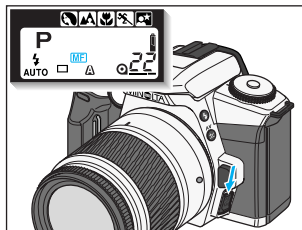
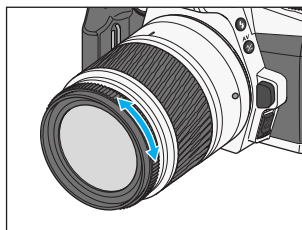
A：AF制御自動切り替え

C：コンティニュアスAF

S：ワンショットAF

■ コンティニュアスAFの場合、ピント合わせに使われたローカルフォーカスフレームは点灯しません。また、ピントが合ったときの電子音も鳴りません。
■ 撮影シーンセレクター選択時は、AFモードの選択はできません。スポーツモードでは、コンティニュアスAF、その他のモードではAF制御自動切り替えになります。

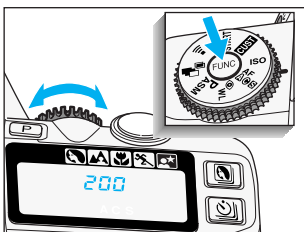
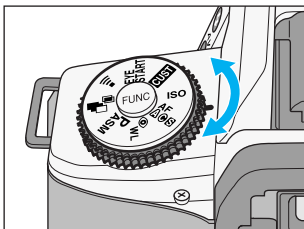
手動でピントを合わせるときは(マニュアルフォーカス)

オートフォーカスを使わずに、マニュアル(手動)で自由にピントを合わせることができます。

1. フォーカスモードレバーを押し下げます。当り位置までしっかり下げます。
   - ボディ表示部に MF と表示されます。
   - 再度押し下げると、オートフォーカスに戻ります。

2. レンズのフォーカスリングを回し、被写体にピントを合わせます。

■ ピントが合うと、ファインダー内のフォーカス表示 ● が点灯します。
■ このカメラの測光方式(14分割ハニカムパターン測光)はオートフォーカスと連動しているため、マニュアルフォーカスにすると、同じ場面でも測光値が異なることがあります。(Dレンズ以外を使用している場合)

フィルム感度の設定を変更する

DXコードの付いていないフィルムは、フィルムの感度が自動的に設定できません。次の手順でフィルムの感度を設定してください。リバーサルフィルム使用時の増感撮影などで自動的に設定された感度を変更するときも同じ手順です。

増感撮影とは、指定されたフィルムの感度を2倍、4倍に変更して撮影する方法です。屋内でのスポーツ写真など、暗い場所で速いシャッター速度が必要な場合に使います。ISO100を400に変更すると4倍、ISO400を800に変更すると2倍増感となります。
増感撮影はフィルム単位で撮影します。途中から感度を変更することはできません。現像するときは、増感撮影したことを必ずお店にお伝えください。

1. カメラにフィルムを入れます。
2. ファンクションダイヤルをISOの位置まで回します。
3. ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回し、ボディ表示部に希望のフィルム感度を表示させます。
   - 設定可能なフィルム感度の範囲は、ISO6～6400です。
4. ファンクションボタンの指を離します。
   - フィルム感度が設定され、通常の表示に戻ります。

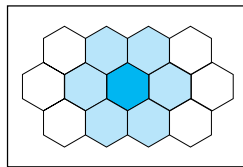
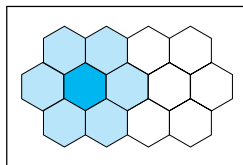
■ フィルム感度を変更した場合、その後も同じ感度のフィルムを続けてカメラに入れると、同様の変更が自動的に行われるように設定することもできます(104ページ参照)。
■ 各コマ単位でフィルム感度を変えると1/3段ごとの露出補正として使用できます。

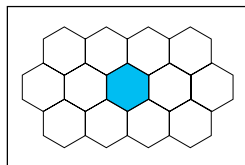
目的に合わせて露出を測る

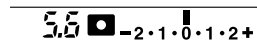
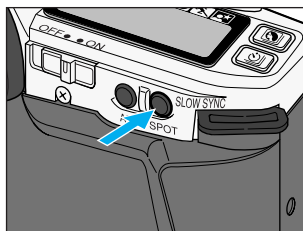
このカメラは2つの測光方式を備えています。目的に合わせて測光方法を選べます。通常は14分割ハニカムパターン測光に設定されています。

14分割ハニカムパターン測光

カメラの画面内に配置された、13個のハニカム(ハチの巣)形状の測光素子と、その周囲との合計14個の測光素子が露出を決定します。これらの素子はオートフォーカスと連動しているので、画面内のどこに被写体があっても測光できます。

14分割ハニカムパターン
(被写体が中央にあるとき)

14分割ハニカムパターン
(被写体が左にあるとき)

スポット測光

画面中央の1個の測光素子のみで露出を決定する測光方式です。

■ カメラにDレンズ以外のレンズを付けている時に、マニュアルフォーカスで使用した場合、自動的に中央重点平均測光に近い方式になります。
オートフォーカスに戻すと、14分割ハニカムパターン測光になります。

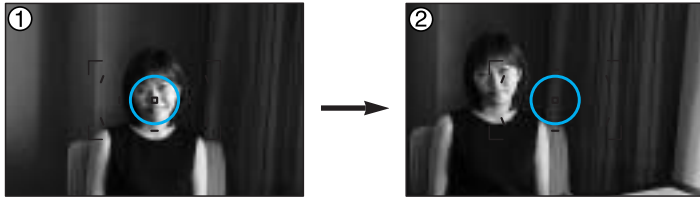
スポット測光で測る

1. 測光したい部分にスポット測光フレームを合わせます。

2. スポットAEロックボタンを押します。
   - ファインダー表示部に ■ が点灯し、露出が固定されたことをお知らせします。

5.6 ■ −2・1・0・1・2＋

3. スポットAEロックボタンを押したまま、シャッターボタンを押して撮影します。
   - スポットAEロックボタンを押したまま構図を変えることもできます。

スポットAEロックボタンを押したときの測光インジケーター

スポットAEロックボタンを押し露出を固定すると、ファインダー内の測光インジケーターに、固定された露出値と、構図を変えた後のスポット測光サークル内の測光値との差が表示されます。

例：　スポットAEロックボタンを押しながら左の画面から右の画面に構図を変えた場合

① スポットAEロックボタンを押したとき　② ボタンを押したまま構図を変えた後

固定された露出値
(＝その時のスポット測光サークル内の測光値)

スポット測光サークル内の測光値
(構図を変えるとそれに連動して変化)

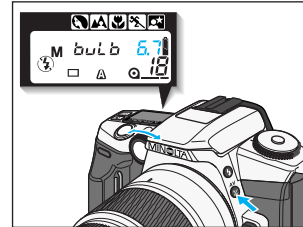
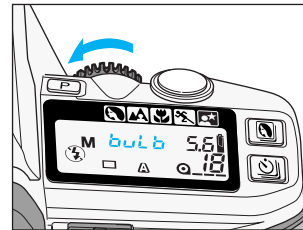
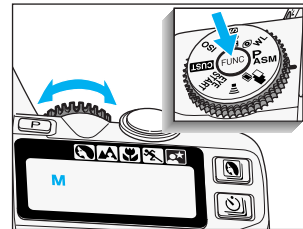
固定された露出値

－2・1・0・1・2＋ → －2・1・0・1・2＋

→スポット測光サークル内の測光値は、固定された露出値よりも1.5段アンダー

■ 露出値の差が3段を越えると◀または▶が点滅します。
■ スポットAEロックボタンを押し続けると、同じ露出で連続して撮影できます。
■ フラッシュが発光するとき(ファインダー表示部に⚡が点灯しているとき)は、スポットAEロックボタンを押しながら撮影すると、スローシンクロ撮影になります(90ページ参照)。
■ ◀▶が点滅した場合は、被写体が明る過ぎまたは暗過ぎて、カメラの測光範囲を超えています。正しい測光は行われません(119ページ参照)。
■ スポットAEロックボタンから指を離しても露出が固定されたままになるように(押し続けなくてもいいように)、カメラの設定を変えることもできます(109ページ参照)。

長時間露光で撮影する(バルブ撮影)

シャッターボタンを押し続けている間、シャッターが開いたままになります。長時間の露光が必要なときに使用します。

1. カメラを三脚などに取り付け固定します。
2. 露出モードをMモードにします。
   - ファンクションダイヤルをPASMにした後、ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回し、ボディ表示部にMを表示します。
3. ダイヤルを左へ回し、buLbを選びます。
4. 露出補正ボタンを押しながらダイヤルを回し、希望の絞り値を選びます。

5. 構図を決めて、ストラップに付いているアイピースキャップを取り付けます。
   - ファインダーから光が入るのを防ぐため、ファインダーにキャップを当て、そのまま押し付けます。
   - IRリモコンRC-3を使用してバルブ撮影するときは、下記の手順にしたがってください。
6. 必要な時間、シャッターボタンを押し続けます。
   - 長時間露光ではカメラぶれが発生しやすくなります。別売のIRリモコンRC-3またはリモートコードRC-1000S・RC-1000L(117ページ参照)を使うとカメラぶれを防ぐことができます。

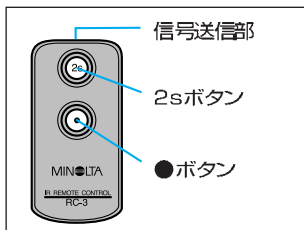
別売のIRリモコンRC-3を使ってバルブ撮影するには

信号送信部

2sボタン

●ボタン

MINOLTA

IR REMOTE CONTROL RC-3

6. 巻き上げモードボタンを押し、ボディ表示部に を表示させます。
7. ●ボタンを押します。シャッターが開き、バルブ撮影を開始します。
   - 2sボタンを押すと、2秒後にシャッターが開き、バルブ撮影を開始します。
8. もう一度●ボタンまたは2sボタンを押すと、シャッターが閉じ、バルブ撮影が終了します。

■ IRリモコンRC-3については、45ページをご覧ください。

画面全体を明るく・暗くする(露出補正)

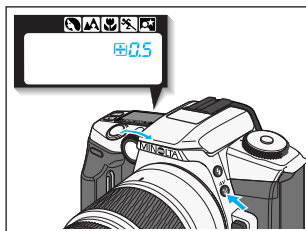
フィルムに当たる光の量が多くなると、画面全体が明るくなって露出オーバーとなります。少なくなると、全体が暗くなって露出アンダーとなります。

適正露出

露出オーバー

露出アンダー

このカメラでは、フィルムに当たる光の量を調節して、意図的に露出オーバー、露出アンダーにする(露出補正をする)ことができます。

右のような場面だと、カメラは被写体である人形が明るく写るように、自動的に露出を調整します。このような場合にアンダー側に露出補正をかけると、人形をシルエットとして浮かび上がらせることができます。

露出補正ボタンを押しながらダイヤルを回し、希望の補正値を設定します。

- ⊞は露出オーバー、⊟は露出アンダーを表わします。数値が大きいほど、露出補正量は大きくなります。
- －3.0から＋3.0まで、0.5段ごとに設定できます。
- －2.0から＋2.0までの露出補正値ではスケール目盛(露出補正値の上に指標)で表わします。
- －2.5のときは、－側の◀が点灯、＋2.5のときは、＋側の▶が点灯します。
- －3.0のときは、－側の◀が点滅、＋3.0のときは、＋側の▶が点滅します。

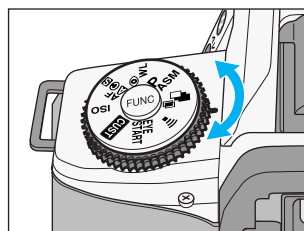
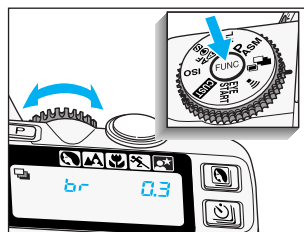
露出補正ボタンから指を離すと、通常の撮影表示に戻ります。ボディ表示部とファインダー内に⊞または⊟の表示が残り、露出補正されていることを表わします。

(例)－2.0に補正

ファインダー表示部

■ ネガフィルムでは効果が出にくいので、リバーサルフィルムの使用をおすすめします。
■ 露出補正を解除する場合は、上記と同じ操作で補正値を0.0にしてください。
■ Mモードでは露出補正はできません。

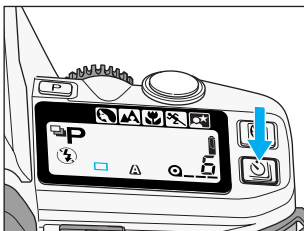
リバーサルフィルムを使うときなど、厳密な露出を要求される撮影では、適正露出での撮影以外に少し露出をずらして何点か撮影することがあります。これをブラケット(露出ずらし)撮影といいます。

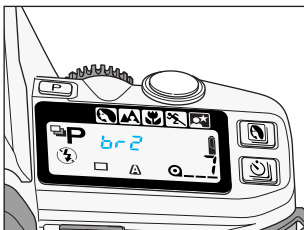
このカメラでは設定した段階(ステップ)で自動的にブラケット撮影ができます。0.3段、0.5段、0.7段、1段の4つの段階が設定できます。
設定した段階で3枚の撮影ができます。
適正露出、露出アンダー、露出オーバーの順で撮影されます。

1. ファンクションダイヤルを▣の位置まで回します。

2. ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回し、ブラケットのステップを設定します。

- 設定は3コマの連続撮影です。1コマ撮影でブラケット撮影される場合は、次ページの手順4に進んでください。

3. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

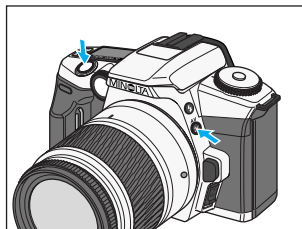
- 連続3コマの撮影(適正露出、露出アンダー、露出オーバーの順に)をします。3枚分の撮影が終わるまでシャッターボタンから指を離さないでください。途中で指を離すと、ブラケット撮影はキャンセルされます。もう一度シャッターボタンを押すと、新たに次のブラケット撮影を始めます。

1コマ撮影でブラケット撮影するには

4. 1コマ撮影でブラケット撮影する場合は、⏲(巻き上げモードボタン)を押して1コマ撮影□を選びます。

- シャッターボタンを半押し後、シャッターボタンから指を離すとボディ表示部にブラケット撮影1枚目を表わすbr 1の表示がでます。

5. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

- 1コマごとにシャッターボタンを押して撮影してください。
- 撮影後、シャッターボタンから指を離すとボディ表示部にブラケット撮影枚数を表わすbr 2、br 3、が表示されます。3枚分の撮影が終わるとbr 1に戻ります。

簡単にブラケット撮影をするには

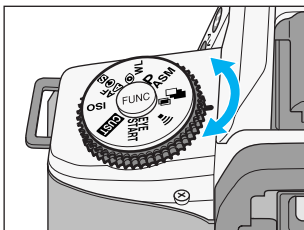
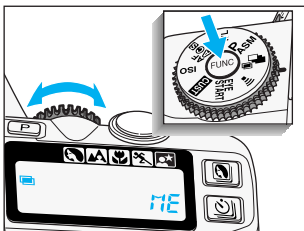
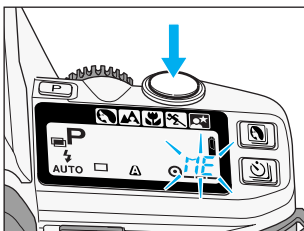
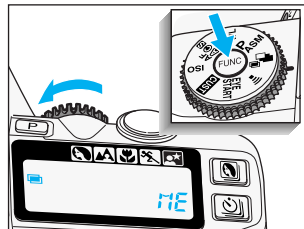
左ページの操作をしなくても、簡単にブラケット撮影をする方法もあります。

露出補正ボタンを押しながらシャッターボタンを押し続けます。

- 連続撮影になりますので、3枚の撮影が終わるまで、シャッターボタンから指を離さないでください。
- ブラケットのステップは0.5段となります。
- 露出補正ボタンから指を離すと元の設定に戻ります。

■ ブラケット撮影を解除するときは、同じ要領で OFF を選んでください。
■ フラッシュは発光しません。ボディ表示部には⚡ が表示されます。フラッシュを発光させたいときは、ブラケット撮影を解除してください。
■ 基準となる露出値(±0)は、1枚目を撮影するときに固定されます。
■ 露出補正(81ページ)をかけると、基準となる露出値(±0)もそれに応じて変わります。
■ ネガフィルムでは効果が出にくいので、リバーサルフィルムの使用をおすすめします。

応用撮影編

多重露光で撮影する

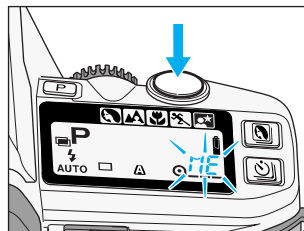
1コマのフィルムに続けて何度も露光することができます。

1. ファンクションダイヤルを　の位置まで回します。

2. ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回し、ボディ表示部に　を表示させます。
   - フィルムカウンターはME になります。

3. シャッターボタンを押し、1回目の撮影を行ないます。
   - 1回目の露光が行なわれ、フィルムカウンターのME が点滅します。フィルムは巻き上げられません。
   - 2回しか露光しない場合は、7に進んでください。

合計3回以上の露光をする場合

4. ファンクションボタンを押しながら、ダイヤルを左方向に1クリック動かします。
   - ME の点滅がME 点灯になります。

5. シャッターボタンを押し、撮影します。

6. 必要なだけ4、5の操作を繰り返します。

最後の露光をします

7. ME が点滅している状態で、シャッターボタンを押し、最後の露光をします。
   - ME が点滅している状態で撮影すると、フィルムが次のコマへ巻き上げられ、フィルムカウンターは通常の状態に戻ります。
   - 撮影後は多重露光が解除されます。

- ■ 多重露光撮影では、背景を暗めにすることをおすすめします。また被写体の状況によっては、あらかじめアンダー側に露出補正しておく必要があります。
- ■ 撮影の途中で多重露光を解除したい場合は、1、2の要領で　OFF を表示させます。メインスイッチをOFFにしても解除されません。
- ■ ネガフィルムで多重露光撮影した場合は、その旨を店頭で申し出ないとプリントされないことがあります。
- ■ 日付・時刻の写し込みは、最後に巻き上げた時の日付・時刻が写し込まれます。

フラッシュ撮影について

このカメラには、28mmレンズの画角をカバーするガイドナンバー12(ISO 100)の内蔵フラッシュが搭載されています。ここでは、内蔵フラッシュだけでなく、別売のプログラムフラッシュも含めた、フラッシュ撮影全般について説明しています。

Dレンズおよび Dフラッシュ(名称の最後に(D)の入っているもの)使用時は、ADI調光方式でフラッシュ調光します。この調光方式は、14分割ハニカムパターン測光と同じようにオートフォーカスと連動し、カメラが被写体の位置を判断してフラッシュの発光量を決定します。さらにフラッシュのガイドナンバーを制御するため、背景の状況や被写体の反射率に左右されにくく、より正確にフラッシュ調光できます。

※ADIとはAdvanced Distance Integrationの略です。

ADI調光

従来の平均的な調光

プログラムフラッシュについて

内蔵フラッシュで光が届かない場合は、プログラムフラッシュ5600HS(D)・3600HS(D)等の外部フラッシュでフラッシュ撮影できます。

- プログラムフラッシュの取り付け方法は、付録(115ページ)をご覧ください。
- フラッシュ表示は内蔵フラッシュと同じです。
- フラッシュ光の届く範囲については、フラッシュの使用説明書をご覧ください。5600HS(D)、5400HS、5400xiをお使いの場合は、フラッシュ背面に表示される距離内で撮影してください。

フラッシュ調光方式について

TTL調光　カメラが自動的に発光量を決めます。

DI調光　TTL調光を発展させたもので、撮影の直前にフラッシュを一度発光させ(プリ発光)、その反射光を14分割ハニカムパターン素子で測光して調光演算に反映させます。

ADI調光　TTL調光をさらに発展させたもので、DI調光に加えてフラッシュのガイドナンバー制御も行います。被写体の反射率にほとんど影響されることなく、より正確に適正露出を得ることができます。

フラッシュ調光方式は、使用レンズ・使用フラッシュによって異なります。

	Dレンズ	その他のレンズ
5600HS(D) 3600HS(D)	ADI 4分割調光 (HSS機能ON、プリ発光あり)	DI 4分割調光 (HSS機能ON、プリ発光あり)
5400HS	DI 4分割調光 (HSS機能ON、プリ発光あり)	DI 4分割調光 (HSS機能ON、プリ発光あり)
その他の プログラムフラッシュ	TTL調光	TTL調光
内蔵フラッシュ	ADI 4分割調光 (プリ発光なし)	TTL調光

シャッター速度がフラッシュ同調速度(1/125秒)を越える場合は、ハイスピードシンクロTTL調光となります。ワイヤレスフラッシュの場合はワイヤレスTTL調光となります。

ハイスピードシンクロ(HSS)撮影が可能なプログラムフラッシュ使用時は、HSS機能をONにしているとプリ発光が行われ、ADI・DI調光が行われます(表中■)。Dレンズ使用時は、内蔵フラッシュでもADI調光(プリ発光なし)が行われます(表中□)。

フラッシュメーターやカラーメーターを使用する場合

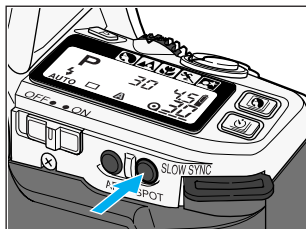
プリ発光が行われると正確な測定ができません。表中■で実際に撮影して測光する場合は、ハイスピードシンクロを解除するか、カスタム設定にてADI・DI調光を解除してください。フラッシュのテスト発光ボタンで測光、マニュアルフラッシュ発光する場合は問題ありません。

一部のフィルターやレンズ等を使用する場合

クローズアップディフューザーCD-1000、露出倍数のかかるフィルター(ND等)、クローズアップレンズ、Dレンズでないマクロレンズのフォーカスレンジ切り替えノブ、一部のレンズに装備しているマクロ切り替えレバー使用時は、ADI・DI調光では適正露出を得ることができません。表中■の場合は、ハイスピードシンクロを解除するか、カスタム設定にてADI・DI調光を解除してください。表中□の場合は、カスタム設定にてADI・DI調光を解除してください。

- ハイスピードシンクロ機能解除時(フラッシュ背面のHSSマークが消えている状態)、バウンス撮影時、およびオフカメラケーブルを使用時には、ADI・DI調光でなくTTL4分割調光になります。
- ハイスピードシンクロの解除はフラッシュ側で行なうのでフラッシュの使用説明書を、カスタム設定でのADI・DI調光の解除は110ページをご覧ください。

スローシンクロ撮影について

夜景を背景にして記念撮影する場合、スローシンクロ撮影（シャッター速度の遅いフラッシュ撮影）をすると、人物も背景もきれいに撮ることができます。

ファインダー内に ⚡ が点灯しているとき（フラッシュが発光するとき）に、スポットAEロックボタンを押しながら撮影します。

ファインダー表示部に■が点灯します。

- ■ 撮影シーンセレクターの「夜景ポートレート」と得られる効果は同じです（42ページ参照）。
- ■ シャッター速度が遅くなりますので、三脚の使用をおすすめします。
- ■ フラッシュが発光しないときにスポットAEロックボタンを押しながら撮影すると、スポット測光になります（77ページ参照）。
- ■ Sモード、Mモードではスローシンクロ撮影はできません。
- ■ スポットAEロックボタンから指を離してもスローシンクロ撮影のままになるように（押し続けなくてもいいように）カメラの設定を変えることもできます（109ページ参照）。

ハイスピードシンクロ撮影について

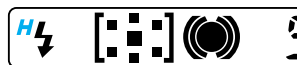
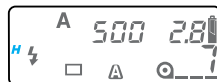
別売のプログラムフラッシュ5600HS(D)、3600HS(D)、5400HSをこのカメラに取り付けてフラッシュの液晶表示部にHSSを表示させると、フラッシュ同調シャッター速度の制限がなくなり、すべてのシャッター速度（30秒〜1/4000秒）でフラッシュ撮影ができるようになります。

ハイスピードシンクロ撮影

通常のフラッシュ撮影

絞り値の選択幅が広がるので、フラッシュを使った撮影でも絞りを開け、人物が浮き上がって見えるポートレートを撮ることができます。

ハイスピードシンクロ撮影では、ボディ表示部とファインダー内のフラッシュモード表示の横にHが点灯します。

設定はフラッシュ側で行います。方法はフラッシュの使用説明書をご覧ください。

- ■ ハイスピードシンクロ撮影では、通常のフラッシュ撮影よりも調光距離の範囲が短くなります。撮影前に、被写体がプログラムフラッシュの連動距離範囲内にあるかどうかプログラムフラッシュ本体または使用説明書で確認してください。
- ■ 蛍光灯下で撮影するとき、またはファインダー内に測光範囲外の警告表示◀▶の点滅が出るときは、適正露出が得られないことがあります。1/125秒より高速のシャッター速度にしないでください。
- ■ フラッシュメーター、カラーメーターは使用できません。

ワイヤレスフラッシュ撮影について

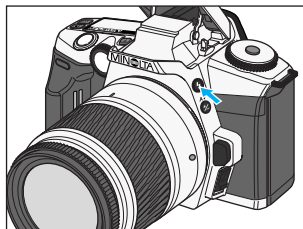
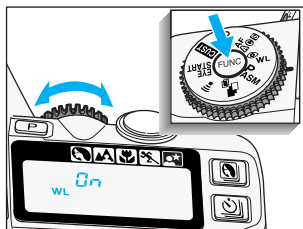
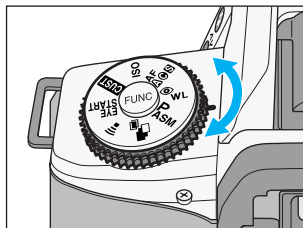
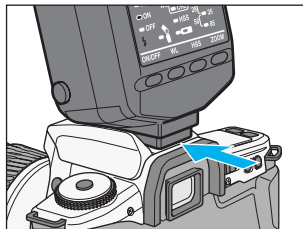
別売のプログラムフラッシュ5600HS (D)、3600HS (D)、5400HS、5400xi、3500xiを使うと、ワイヤレスフラッシュ撮影ができるようになります。

フラッシュをカメラに
取り付けて撮影

ワイヤレスフラッシュ撮影
(標準)

ワイヤレスフラッシュ撮影
(光量比制御)

フラッシュをカメラの上に取り付けて撮影すると、写真①のように平面的な写真になることがあります。
このようなとき、フラッシュをカメラから取り外し、フラッシュの位置を工夫することで、②のような陰影の付いた立体感のある写真が撮影できます。
写真③は、カメラの内蔵フラッシュとカメラから離したプログラムフラッシュの光量を、1:2の割合で発光させたものです。明暗差が柔らかくなり、自然な陰影を付けることができます。

一眼レフカメラでこのような撮影をするときには、カメラとフラッシュをコードで接続しなければならない場合があります。このカメラは、コードがなくてもこのような撮影ができます。これは、カメラとフラッシュの信号の伝達をコードではなく、フラッシュの光を利用するからです。この撮影をワイヤレス(＝コードのない)フラッシュ撮影といいます。
もちろん露出はカメラが自動で適正露出になるよう制御します。

1. フラッシュをカメラに取り付け、フラッシュとカメラの電源をONにします。

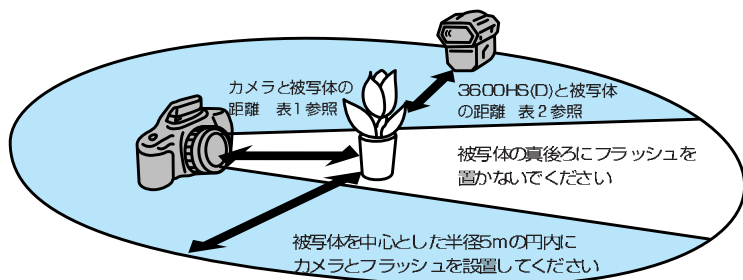
2. ファンクションダイヤルを◎WL の位置まで回します。

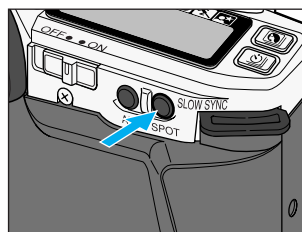
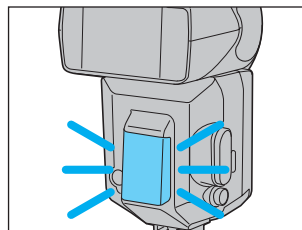
3. ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回し、ボディ表示部にWL On を表示させます。

4. フラッシュをカメラから取り外し、フラッシュモードボタンを押してカメラの内蔵フラッシュを上げます。

5. カメラとフラッシュの位置を決めます。

このカメラは内蔵フラッシュの発光を信号として対応のプログラムフラッシュを発光させます。信号が正しく受け取れるよう以下のことに気を付けてください。

- 室内など暗いところで撮影してください。
- 下図の青色の部分にフラッシュを設置してください。フラッシュと被写体の距離(表2)については、例として3600HS(D)を使用した場合の代表的な距離を記載しています。詳しい距離情報については、それぞれのフラッシュの使用説明書をご覧ください。

	カメラと被写体の距離(表1)	3600HS(D)と被写体の距離(表2)			
		HSSでない撮影		HSS撮影	
シャッター速度 / 絞り値	全シャッター速度	1/45秒以下	1/60〜1/125秒	1/250秒	1/1000秒
2.8	1.4 - 5 m	1.4 - 5 m	1 - 5 m	1 - 4 m	1 - 2 m
4	1 - 5 m	1.35 - 5 m	1 - 5 m	1 - 3 m	1 - 1.5 m
5.6	1 - 5 m	1.25 - 5 m	1.35 - 5 m	1 - 2 m	

- 表の値はISO100のフィルム使用時です。ISO400の場合は、上記の値の2倍の距離になります(上限は5mです)。
- ワイヤレスフラッシュ撮影においてもハイスピードシンクロ撮影が可能になりシャッター速度全域(30秒〜1/4000秒)でフラッシュ撮影ができます。
  これはプログラムフラッシュ5600HS(D)、3600HS(D)でのみ可能です。それ以外のフラッシュでは、シャッター速度は1/45秒または、それ以下となります。

6. カメラの内蔵フラッシュとプログラムフラッシュの充電完了を確認します。

- 内蔵フラッシュは、ファインダー内の ϟ が点灯すると充電完了です。
- プログラムフラッシュは、背面の ϟ が点灯し、前面のAF補助光が点滅すると充電完了です。

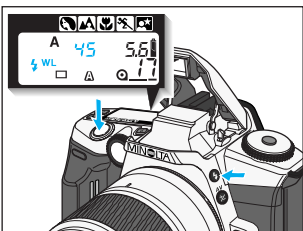
7. カメラのスポットAEロックボタンを押し、カメラから離したフラッシュが発光することを確認します(テスト発光)。

8. もう一度両方のフラッシュの充電完了を確認し、シャッターボタンを押し込んで撮影します。

● ワイヤレス撮影で2台以上のフラッシュを発光させることもできます。Dフラッシュとそれ以外のフラッシュを同時に発光させる場合、DフラッシュでないフラッシュをカメラIに取り付けてワイヤレス設定にしてください。Dフラッシュを取り付けて設定すると、Dフラッシュでない方が発光しないことがあります。

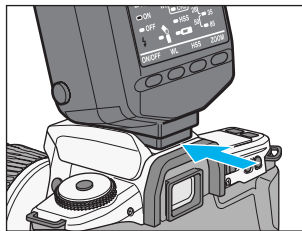
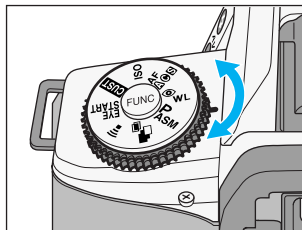
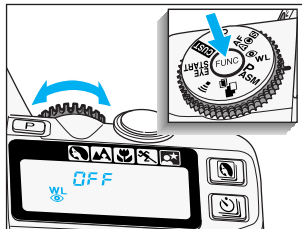
■ スポットAEロックボタンから指を離しても、その機能が残るよう設定を変更しているとき(109ページ)は、設定番号1に戻すことをおすすめします。設定番号2の状態では、ファインダー内に ϟ が点灯している間はスローシンクロ撮影になります。また、テスト発光のたびに、スローシンクロ撮影とそうでない状態とが切り替わります。

光量比制御撮影をする

プログラムフラッシュを2、カメラの内蔵フラッシュを1の割合で発光させることができます。

1. 通常のワイヤレスフラッシュ撮影と同様にカメラとフラッシュを設定します。

2. カメラのフラッシュモードボタンを押しながら、シャッターボタンを押して撮影します。

■ プログラムフラッシュとカメラの内蔵フラッシュの割合を逆に設定することはできません。
■ このときはワイヤレスハイスピードシンクロにはなりません。
■ シャッター速度は、1/45秒またはそれ以下となります。

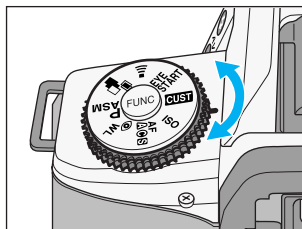
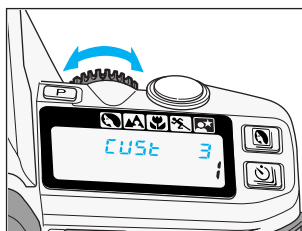
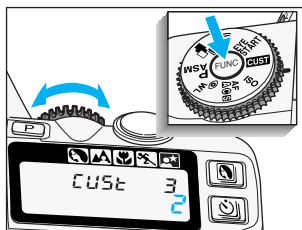
ワイヤレスフラッシュを解除する

1. フラッシュをカメラに取り付け、フラッシュとカメラの電源をONにします。

2. ファンクションダイヤルを 👁WL の位置まで回します。

3. ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回し、ボディ表示部に WL OFF を表示させます。

■ フラッシュをカメラに取り付けた状態でカメラのメインスイッチをOFFにしても、ワイヤレスフラッシュは解除されます。
■ カメラとフラッシュを離した状態でそれぞれのメインスイッチをOFFにすると、カメラのワイヤレス設定は解除されますが、フラッシュは解除されません。フラッシュだけでワイヤレス設定を解除するには、それぞれのフラッシュの使用説明書をご覧ください。

【カスタム設定編】

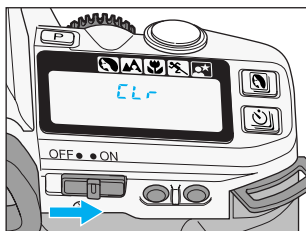
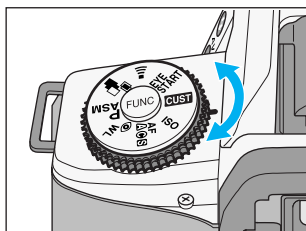
カメラの設定状態を、自分の好きな状態に変更する方法を説明しています。

カメラの設定を変更する(カスタム設定)

カメラの設定をお好みの状態に変更できます。各項目の説明については、103ページ以降をご覧ください。
お買い上げ時には、設定はすべて「1」になっています。

1. ファンクションダイヤルをCUSTの位置まで回します。

2. ダイヤルを回し、変更したい項目(カスタム-1〜カスタム-14)を選びます。

3. ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回し、設定を変更します。
4. ファンクションダイヤルをCUST以外の位置まで回します。

- ■ 設定した内容は、プログラムセットボタンを押しても、カメラの電源を切っても、電池を抜いても、保持されています。
- ■ ファンクションダイヤルのCUST位置では、撮影することはできますが、他の操作部材との併用はできません。

カスタム設定編

カスタム設定の初期化

1. メインスイッチをOFFにします。
2. ファンクションダイヤルをCUST の位置まで回します。

3. ファンクションボタンを押しながら、メインスイッチをOFFからONにします。
   - すべてのカスタム設定が初期状態(設定番号1)に戻ります。
   - ファンクションボタンを押している間、CLrの表示が点滅します。

カスタム設定項目

カスタム設定項目		設定	
1	オートフォーカス優先／レリーズ優先	1	オートフォーカス優先
		2	レリーズ優先
2	自動巻き戻し	1	あり
		2	なし
3	巻き戻したフィルムの先端	1	残さない（パトローネ内に巻き込む）
		2	残す
4	フィルム感度変更記憶	1	なし
		2	あり
5	フィルム未装填時のレリーズロック	1	なし
		2	あり
6	フォーカスホールドボタンの機能	1	フォーカスホールド
		2	コンティニュアスAF
		3	プレビュー(絞り込み)
7	アイセンサーの機能	1	グリップを握ると作動
		2	グリップを握らなくても作動
8	Pモード時(撮影シーンセレクター含む)のフラッシュ自動発光の有無	1	フラッシュ自動発光あり(PA/PSシフトなし)
		2	フラッシュ自動発光なし(ダイヤルを回すとPAシフト)
		3	フラッシュ自動発光なし(ダイヤルを回すとPSシフト)

カスタム設定項目		設定	
9	スポットAFロックボタンの機能	1	中央のスポットフォーカスフレームを選択
		2	ローカルフォーカスフレームの選択
		3	ワイドフォーカスフレームとスポットフォーカスフレームの切り替え
10	スポットAEロックボタンの機能	1	ボタンを押している間だけ機能する
		2	一度ボタンを押すと機能し、もう一度押すと解除
11	内蔵フラッシュによるAF補助光	1	あり
		2	なし
12	フラッシュ調光方式	1	ADI4分割調光
		2	TTL4分割調光
13	フォーカスフレーム表示	1	0.3秒
		2	0.6秒
		3	表示なし
14	レンズ未装着時のレリーズロック	1	あり
		2	なし

カスタム-1　オートフォーカス優先／レリーズ優先

1. オートフォーカス優先

ピントが合わなければシャッターは切れません。

2. レリーズ優先

ピントが合っていなくても、シャッターボタンを押したときにシャッターが切れます。

- ■ シャッターチャンスを逃さずに撮影することができます。
- ■ ファインダー内の ● または ◉ が点灯してから(ピントが合ってから)撮影することをおすすめします。

カスタム-2　自動巻き戻し

1. 自動巻き戻しあり

最後のコマを撮影すると、自動的に巻き戻しが始まります。

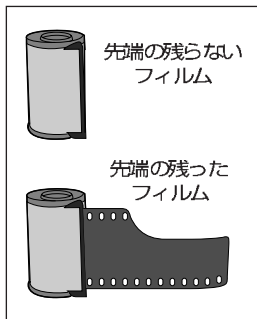
2. 自動巻き戻しなし

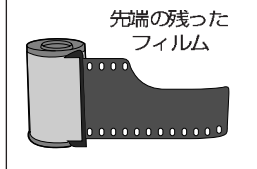
最後のコマを撮影しても、巻き戻しは始まりません。巻き戻しを始めるときは、ボディ背面の途中巻き戻しボタンを押してください。

- ■ 結婚式など、巻き戻しの音を立てたくないときに便利です。

カスタム-3　巻き戻したフィルムの先端

1. フィルムの先端を残さない

巻き戻したフィルムは、すべてパトローネ内に巻き込まれています。

2. フィルムの先端を残す

巻き戻したフィルムの先端はすべてパトローネ内に巻き込まれず、一部外に出ています。

■ 巻き戻しの途中でメインスイッチをOFFにしないでください。ONにすると巻き戻しが再開しますが、フィルムがすべて巻き込まれてしまうことがあります。

カスタム-4　フィルム感度変更記憶

1. フィルム感度変更記憶なし

撮影者がフィルム感度の設定・変更を行った場合でも、その設定は該当するフィルム１本のみのものとして扱われます。

2. フィルム感度変更記憶あり

撮影者がフィルム感度の設定・変更を行った場合、次に同じ感度のフィルムを入れると、同様の変更が自動的になされます。
(例：ISO 400のフィルムをISO 800に変更した場合、次にISO 400のフィルムを入れると、フィルム感度は自動的にISO 800になります。)

■ リバーサルフィルムを頻繁に好みの感度に合わせて使われる方に便利です。
■ フィルムを入れてからフィルム感度の設定・変更をしてください。
■ 一旦違う感度のフィルムを入れると、記録されたフィルム感度はリセットされます。

カスタム-5　フィルム未装填時のレリーズロック機能

1. フィルム未装填時のレリーズロックなし

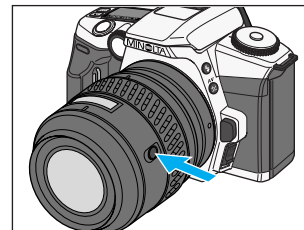
カメラにフィルムを入れなくても、シャッターを切ることができます。

2. フィルム未装填時のレリーズロックあり

フィルムが入ってなければシャッターは切れません。

■ フィルムを入れ忘れたまま撮影するという失敗を防ぎます。
■ フィルムを入れていなくても、裏ぶたを開けたままの状態だと、シャッターを切ることができます。
■ シャッターボタンを押し込むと、絞り値表示部分(ボディ表示部およびファインダー表示部)に 0 が点滅してフィルムが未装填であることを警告表示します。

カスタム-6　フォーカスホールドボタンの機能

レンズのフォーカスホールドボタンの機能を変更します(フォーカスホールドボタン付きのレンズのみ)。

1. フォーカスホールド

フォーカスホールドボタンを押している間、ピント位置が固定されます。

2. コンティニュアスAF

フォーカスホールドボタンを押している間、コンティニュアスAFとなり、常にピントを合わせ続けます。

■ 瞬時に動いているものを撮影したい時に便利です。

3. プレビュー(絞り込み)

フォーカスホールドボタンを押している間、設定している絞り値までレンズが絞り込まれ、ぼけ具合をプレビューできます。

●プレビューボタンと同じ機能が使えます(58ページ参照)。

●Dレンズ以外のレンズをお使いの場合は、シャッターボタンを半押しした状態でフォーカスホールドボタンを押してください。

カスタム-7　アイセンサーの機能

メインスイッチがONの状態でグリップを握ると、グリップセンサーがそれを検知して、アイセンサーの作動を開始させます。アイセンサーが作動しているときにファインダーに顔を近付けると、カメラを構えていると分かるので、撮影準備(ピント合わせと露出の決定)が行なわれます。

● アイスタート機能をOFFにしているときは、この設定は関係ありません(26ページ参照)。

1. グリップを握ると作動

グリップを握ったことをグリップセンサーが検知すると、アイセンサーの作動が開始します。

2. グリップを握らなくても作動

メインスイッチをONにすると、グリップを握らなくても、すぐにアイセンサーの作動が開始します。

■ ごくまれにグリップの握り方により、グリップセンサーが検知しにくい場合があります。このような場合、この設定でお使いください。

■ カメラを三脚に取り付けているとき、手袋をしているときなどに便利です。

■ この設定にすると、メインスイッチをONにしただけでアイセンサーの検知が始まります。電池の消耗を防ぐため、カメラを使わないときにはメインスイッチをできるだけOFFにしてください。

カスタム-8　Pモード時(撮影シーンセレクター含む)の フラッシュ自動発光の有無

1. フラッシュ自動発光あり(PA/PSシフトなし)

Pモードでシャッターボタンを半押しすると、フラッシュは必要時に、自動的に上がり発光します。

別売のプログラムフラッシュ使用時は、電源をONにしていると必要時に自動発光します。

■ フラッシュモードボタンを押しながらダイヤルを回して、強制発光または発光禁止を選ぶこともできます(35ページ参照)。

2. フラッシュ自動発光なし(ダイヤルを回すとPAシフト)

3. フラッシュ自動発光なし(ダイヤルを回すとPSシフト)

Pモードでもフラッシュは自動発光しません。フラッシュを発光させるときは、フラッシュモードボタンを押して内蔵フラッシュを上げてください。別売のプログラムフラッシュ使用時は、フラッシュの電源をONにしてください。

フラッシュを発光させたくないときは、内蔵フラッシュを下げてください。プログラムフラッシュ使用時は、フラッシュの電源をOFFにしてください。

● 2に設定すると、Pモードで測光値が表示されているときに、ダイヤルを操作して一時的に絞り値を変更(PAシフト)することができます(65ページ参照)。

● 3に設定すると、Pモードで測光値が表示されているときに、ダイヤルを操作して一時的にシャッター速度を変更(PSシフト)することができます(65ページ参照)。

■ 自動発光が煩わしいときおよびPA/PSシフトをご使用のときに設定してください。

カスタム-9　スポットAFロックボタンの機能

スポットAFロックボタンの機能を変更します。

1. 中央のスポットフォーカスフレームを選択

スポットAFロックボタンを押している間、ピント合わせはワイドフォーカスフレームではなく中央のスポットフォーカスフレームで行います。また、スポットAFロックボタンを押しながらダイヤルを回すとローカルフォーカスフレームを選択することもできます。
ボタンから指を離すとワイドフォーカスフレームに戻ります(69~70ページ参照)。

2. ローカルフォーカスフレームの選択

スポットAFロックボタンを押しながらダイヤルを回すと特定のローカルフォーカスフレーム(スポットフォーカスフレームを含む)を選択することができます。ボタンを押しつづけなくても選択したフォーカスフレームは維持されます(69~70ページ参照)。

3. ワイドフォーカスフレームとスポットフォーカスフレームの切り替え

スポットAFロックボタンを押すたびに、ワイドフォーカスフレームとスポットフォーカスフレームが切り替わります。

■ボディ表示部およびファインダー表示部に下記の表示がでます。(スポットAFロックボタンを押している間)

ワイドフォーカスフレーム

スポットフォーカスフレーム

カスタム-10 スポットAEロックボタンの機能

スポットAEロックボタンの機能を変更します。

1. ボタンを押している間だけ機能する

スポットAEロックボタンを押している間のみ、スポット測光またはスローシンクロになります。ボタンを押しながらシャッターを切ってください(77ページ参照)。

2. 一度ボタンを押すと機能し、もう一度押すと解除

スポットAEロックボタンを一度押して離すと、スポット測光またはスローシンクロになります。シャッターを切るときに、スポットAEロックボタンを押し続ける必要がありません。解除するときは、もう一度スポットAEロックボタンを押してください。

■ 機能している間は、ファインダー内に ● が表示されます。
■ プログラムセットボタンを押す、フラッシュ発光の有無を切り替える、メインスイッチをOFFにする等の操作でも解除されます。

カスタム-11 内蔵フラッシュによるAF補助光

1. 内蔵フラッシュによるAF補助光あり

必要時には自動的にAF補助光が発光します。

■ 内蔵フラッシュを発光禁止 にしているときは、AF補助光は発光しません。

2. 内蔵フラッシュによるAF補助光なし

AF補助光は発光しません。

■ フラッシュは発光させたいがAF補助光は発光させたくない場合に有効です。
■ 内蔵フラッシュによるAF補助光なしに設定しても、プログラムフラッシュを使用した場合は、プログラムフラッシュの補助光は発光します。

カスタム-12 フラッシュ調光方式

このカメラには、フラッシュ調光としてADI4分割調光方式が採用されていますが、撮影者の好みによって変更することができます。

● 内蔵フラッシュにも別売のプログラムフラッシュにも共通です。

1. ADI4分割調光

フラッシュ発光時には、使用フラッシュ・レンズによっては、ADI4分割フラッシュ調光またはDI4分割調光を使って露出を決定します。

■ AD調光・D調光ができないフラッシュやレンズ使用時には、TTL4分割調光となります。

2. TTL4分割調光

フラッシュ発光時にはTTL4分割ダイレクト調光方式を使って露出を決定します。4分割調光素子がオートフォーカスと連動しているので、カメラが被写体の位置と明るさを的確に判断します。

■ メーターやソフトライティングセット、ディフューザー、NDフィルターを使われる場合はこの設定にしてください。

カスタム-13 フォーカスフレーム表示

7つのローカルフォーカスフレーム(センサー部)のうち、ピントが固定されたフレームが一瞬赤く点灯します。この点灯時間を変更することができます。

1. ピント合焦時に表示(約0.3秒)

2. ピント合焦時に表示(約0.6秒)

3. 表示なし(ローカルフォーカスフレーム選択時のみ表示)

ローカルフォーカスフレーム選択時、またはスポットAFロックボタンを押したときのみ約0.6秒点灯します。

■ シャッターボタン半押しでは点灯しません。シャッターを切るたびに点灯するのがわずらわしい場合にご使用ください。

カスタム-14 レンズ未装着時のレリーズロック機能

1. レンズ未装着時のレリーズロックあり

カメラにフィルムが入っている場合、レンズを取り付けていなければシャッターは切れません。

■ レンズが取り付けられていない状態で誤って撮影が行われるのを防ぎます。
■ シャッターボタンを半押しすると絞り値表示部分に「－ －」が点灯します。

2. レンズ未装着時のレリーズロックなし

フィルムが入っていてレンズが取り付けられていなくても、シャッターを切ることができます。

■ カメラを天体望遠鏡に取り付ける場合など、ミノルタAFレンズ以外のレンズで撮影したいときにご使用ください。それ以外は誤操作防止のため、設定1でのご使用をおすすめします。

【付録】

お使いいただけるアクセサリーや取り扱い上の注意などについてまとめています。

プログラムセットボタンの機能

プログラムセットボタンを押すと、カメラは最も基本的な状態(全自動)になります。

状態が変わるもの	ボタンを押した後の状態	参照
露出モード	P(プログラム)モード	54
撮影シーンセレクター	解除(Pモード)	38~43
フラッシュ発光	自動発光(カスタム8-1に設定の場合)	34
ピント合わせ	オートフォーカス	32
セルフタイマー	(作動前／作動中に関係なく)解除	44
連続撮影	解除(1コマ撮影)	47
露出補正値	0.0	81
ブラケット(露出ずらし)	解除	83
多重露光	(2枚目が未撮影でも)解除	86
ワイヤレスフラッシュ設定	解除	92
AFモード	AF制御自動切り換え	71
AFフレーム	ワイドフォーカスフレーム	66
ワイヤレスリモコン	解除(1コマ撮影)	45

■ 以下の設定はプログラムセットボタンを押しても変更されません。
- ・内蔵フラッシュの赤目軽減発光
- ・日付と時刻に関する設定
- ・フィルム感度
- ・カスタム設定
- ・アイスタート設定
- ・電子音設定

このカメラと組み合わせて使えるアクセサリー

このカメラでご使用いただくレンズ・アクセサリーは、当社製品をおすすめします。当社のレンズ・アクセサリーはこのカメラの特性に適合するように設計、製造、管理されています。当社製品以外の付属品をお使いの場合、いかなる事象が生じるかは予想いたしかねます。

レンズ

すべてのαレンズ、α-Xiレンズが使用できます。それ以外のレンズ(Vレンズ、MDレンズ、MCレンズなど)はご使用になれません。

カメラとレンズをセットで購入された方へ

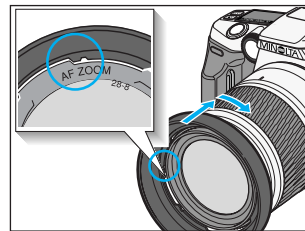
レンズの主な仕様

	AFズーム28-80mm F3.5-5.6 (D)	AFズーム75-300mm F4.5-5.6 (D)
レンズ(群ー枚)	7 - 8	10 - 13
画角	75°～30°	32°～8°10'
最近接撮影距離＊	0.4 m	1.5 m
最大撮影倍率	0.24 X	0.25 X
最小絞り	F22 -38	F32 -38
フィルター径	55 mm	55 mm
補修用性能部品保有年限(生産終了後)	5年	5年
大きさ(最大径 X 長さ)	63 X 68 mm	71 X 122 mm
重量	190 g	460 g

＊最近接撮影距離とは、フィルム面から被写体までの最短距離を示します。

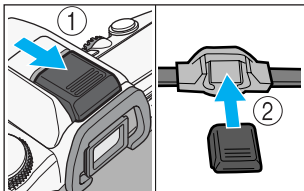
■ 本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

レンズフード

フラッシュを使わずに撮影する場合は、画面外にある光が描写に影響するのを防ぐために、フードの使用をおすすめします。
フードとレンズ先端とを合わせ(位置合わせ必要)、時計方向に回して取り付けます。

■ 内蔵フラッシュを使って撮影するときは、フラッシュ光がさえぎられることがありますので、レンズフードを外してください。
■ 収納するときは逆向けに取り付けてください。

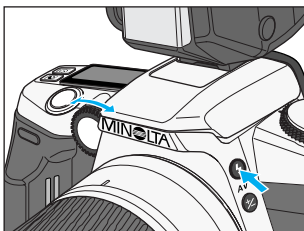
フラッシュ

内蔵フラッシュでは光が届かないような距離でも、より大光量のプログラムフラッシュやベクティスフラッシュを用いれば、美しいフラッシュ撮影ができます。

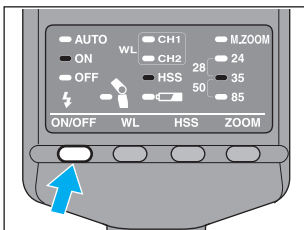
- ●プログラムフラッシュ5600HS(D)、3600HS(D)、5400HS、5400xi、3500xi、2000xi、5200i、3200i、2000i、ベクティスフラッシュSF-1、マクロリングフラッシュ1200、マクロツインフラッシュ2400は、そのままご使用になれます。
- ●AFシリーズ以前のフラッシュ(オートエレクトロフラッシュなど)や、ミノルタ以外の他社製のフラッシュは、このカメラでは使えません。
- ●プログラムフラッシュ4000AF、2800AF、1800AF、マクロフラッシュ1200AFをご使用になる場合は、以下の点にご注意ください。
  - ・カメラに取り付ける際には、別売りのフラッシュシューアダプターFS-1100が必要です。
  - ・フラッシュのAF補助光は発光しません。

取付方法

1. アクセサリーシューキャップを外してください①。

   キャップはストラップに付いているアイピースキャップに収納することができます②。

2. フラッシュのオートロックフットをカメラのアクセサリーシューに、止まるまでしっかりと差し込みます。(詳細はフラッシュの使用説明書参照)

カメラ側で操作する場合

カメラのフラッシュモードボタンを押しながらダイヤルを回します。

自動発光、強制発光、発光禁止のいずれか1つが選択できます。

フラッシュ側で操作する場合

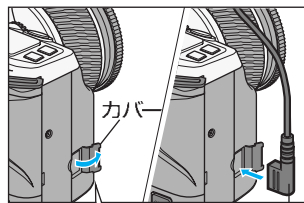
フラッシュのON／OFFボタンを押します。

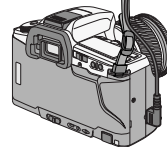
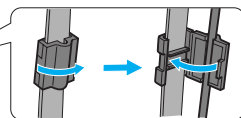
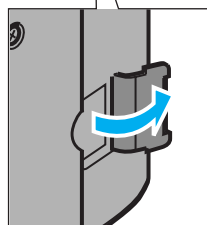
シャッターボタンを半押しすると、カメラのボディ表示部に現在のモードが表示されます。

3600HS(D)

- ■ フラッシュ表示は内蔵フラッシュと同じです。
- ■ フラッシュ光の届く範囲については、フラッシュの使用説明書をご覧ください。
- ■ 赤目軽減発光はできません(内蔵フラッシュ以外ではそれほど目が赤く写らないため)。
- ■ Pモードおよび撮影シーンセレクター選択時は、自動発光と発光禁止しか選択できませんので、フラッシュを必ず発光させたいとき(強制発光)はカメラ側で操作を行ってください。
- ■ A／S／Mモード時は、内蔵フラッシュと同じく、強制発光または発光禁止しか選べません。

リモートコードRC-1000S/RC-1000Lについて(別売)

カメラから離れてシャッターを切ることができます。カメラぶれを防ぐと同時に、シャッターボタンを長時間押したまま固定することもできます。

リモートレリーズターミナルのカバーを開けて、コードをターミナルに接続します。

- コードを上向きにして接続してください。
- リモートコードを取り外すときは、コードのプラグ部分を持って外してください。リモートレリーズターミナルのカバーは引張らないでください。

別売のリモートコードクリップで、コードをはさんで止めることができます。

バッテリーパック BP-200

単3形電池が使用できるα-SweetⅡ専用のバッテリーパックです。

使用できる電池は、単3形アルカリマンガン電池(4本)またはニッケル水素電池(4本)です。

(2001年秋発売予定)

付録

アングルファインダー／マグニファイヤー

アングルファインダー、マグニファイヤーなど、ファインダー部分にアクセサリーを取り付ける場合は、アイピースカップを外してください。アイピースカップは両側を上に押し上げると外れます。

●アングルファインダーまたはマグニファイヤーをお使いの際は、アイスタートをOFFにしてください。

視度調整アタッチメント1000

ファインダー内の画像がはっきり見えないときは、視度調整アタッチメント1000を取り付けて視度を調整することができます。近視用4種類、遠視用5種類があります。

以下のものは、このカメラと組み合わせての使用はできません。

●ワイヤレスフラッシュリモコン
●コントロールグリップCG-1000　●データレシーバーDR-1000
●ワイヤレスコントローラーIR-1N
●各種縦位置コントロールグリップ　●データセーバーDS-100

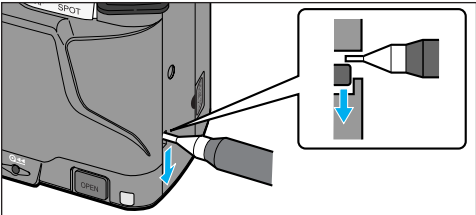
■ この使用説明書は2001年4月に作成されたものです。それ以降に発売されたアクセサリーとの組み合わせは、本書裏表紙に記載の当社フォトサポートセンターにお問い合わせください。

測光値表示が点滅したときは(露出の警告)

そのまま撮影すると適正露出が得られないときは、測光値表示が点滅してお知らせします。点滅しないように設定を変えてください。

	表示部	原因	処置
P／A／S／M	-2・1・0・1・2+	被写体が明るすぎる、または暗すぎて、カメラの測光範囲を超えています。	被写体が明るすぎるときは、NDフィルターを使うか、被写体が暗くなるようにします。 被写体が暗すぎるときは、フラッシュ撮影を行なうか、被写体が明るくなるようにします。
P	P 4000 22 AUTO / 4000 22	被写体が明るすぎる、または暗すぎて、使用レンズの絞り値、シャッター速度の範囲を超えています。	
A (PA)	A 4000 4 / 4000 4	被写体が明るすぎる、または暗すぎて、シャッター速度の範囲を超えています。	シャッター速度が点滅しないように、絞り値を変更します。
S (PS)	S 2000 3.5 / 2000 3.5	被写体が明るすぎる、または暗すぎて、使用レンズの絞り値の範囲を超えています。	絞り値が点滅しないように、シャッター速度を変更します。

■ 上記のうち、上の2つは撮影シーンセレクター選択時にも表示されることがあります。

付録

あれっ？と思ったときは

故障かな？と思ったときは、次のことを調べてみてください。それでも調子が悪いときや分からないときは、「アフターサービスのご案内」に記載されている当社サービスセンター、サービスステーションにお問い合わせください。

症状	点検項目	処置	ページ
ピントが合わない。	ボディ表示部に MF が表示されていませんか。	フォーカスモードレバーを押し下げてオートフォーカスにしてください。	73
	オートフォーカスの苦手な被写体(32ページ参照)を撮ろうとしていませんか。	フォーカスロック、または手動によるピント合わせを行なってください。	32 73
	被写体に近づきすぎていませんか。	レンズの最近接撮影距離より離れて撮影してください。(最近接撮影距離については、レンズの使用説明書をご覧ください。)	
シャッターが切れない。	ピントは合っていましたか。	ピントが合わないとシャッターは切れません。(ピントが合わなくてもシャッターが切れるようにすることもできます。	103
	カメラを天体望遠鏡などに取り付けていませんか。	天体望遠鏡などにカメラを取り付けた場合は、フィルムが入っているとシャッターが切れません。	111
各種操作部材での機能変更ができない。	ボディ表示部に「CUSt」が表示されていませんか。	ファンクションダイヤルの設定をCUST以外にしてください。	

症状	点検項目	処置	ページ
シャッターが切れない。	カスタム設定でレリーズロックありにしていませんか。	カスタム-5の2に設定しているとフィルムがカメラに入っていないとシャッターは切れません。	105
暗いところでシャッターボタンを半押しすると、フラッシュが発光する。	暗いところでもピントが合うようにするためのフラッシュ(AF補助光)です。	フラッシュを発光禁止にすると、AF補助光も発光しません。また、AF補助光だけを発光しないようにすることもできます(109ページ参照)。	67
写真がぶれてしまう。	暗いところでフラッシュを発光させずに撮影しませんでしたか。	フラッシュまたは三脚の使用をおすすめします。高感度フィルムを使うと手ぶれが少なくなります。望遠レンズを使ったり、フラッシュを発光させずに撮影すると、手ぶれしやすくなります。	42
フラッシュ撮影したものが全体的に暗くなる。	フラッシュ光の届く範囲で撮影しましたか。	フラッシュ光の届く範囲で撮影してください。別売りのフラッシュをご使用のときは、フラッシュの使用説明書をご覧ください。	34
フラッシュ撮影したものの下部が暗くなる。	レンズフードを付けたまま撮影しませんでしたか。	カメラの内蔵フラッシュで撮影するときは、レンズフードを外してください。	115
	被写体に近づきすぎていませんか。	カメラの内蔵フラッシュで撮影するときは、被写体から1m以上離れてください。	34

付録

症状		処置	ページ
ボディ表示部にErrが表示される、または何も表示されない。		電池を一度取り出し、入れ直してください。それでも直らない場合、また何度も繰り返して表示される場合は、別紙「アフターサービスのご案内」に記載の当社サービスセンター、サービスステーションにお問い合わせください。	
裏ぶたが開かずフィルムが取り出せない。	このカメラは、セーフティロック機能を搭載しており、フィルムがはいっていると裏ぶたを開けることができません。 故障時など、非常の場合には以下の方法で裏ぶたを開けることができます。 **ファンクションダイヤルをISOの位置に合わせ、ファンクションボタンとスポットAEロックボタンを押しながら、メインスイッチをOFF→ONにすると裏ぶたロックが解除されます。** **暗室や暗箱の中にカメラを入れ、フィルムを取り出します。** **この方法で開かない場合は、以下の手順に従ってください。** **カメラのグリップ側にある小さな穴に、先の細いものを突っ込んで、中のスイッチを押し下げ、裏ぶたを開けます。** **裏ぶたを開けてフィルムを取り出すときは、暗室や暗箱の中で行ってください。**		

電池について

●電池の性能は低温になるほど低下します。寒いところでご使用になるときは、カメラを保温しながら撮影してください。海外旅行や寒いところでは、予備の電池をご用意されることをおすすめします。なお、低温のために性能が低下した電池でも、常温に戻せば性能は回復します。

●新品の電池を初めてお使いのとき、電池が保管されていた状況によっては、メインスイッチをONにするとが点滅することがあります。この場合はメインスイッチを何度か切ったり入れたりすると、電池容量が回復します。

使用温度について

●このカメラの使用温度範囲は－20℃～50℃です。

●直射日光下の車内など極度の高温下や、湿度の高いところにカメラを放置しないでください。

●液晶表示は、低温下で反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻せば正常に作動します。

●カメラに急激な温度変化を与えると内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から温かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋に入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度になじませてからカメラを取り出してください。

その他

●カメラは精密機械です。取り扱いには注意してください。特に、シャッター幕、ミラー、レンズの信号接点などを傷つけないようにしてください。

●カメラに強い衝撃を与えないでください。

●バッグなどに入れて持ち運ぶときは、メインスイッチをOFF位置にしてください。

●このカメラは防水設計にはなっていません。海辺等で使用されるときは、水や砂がかからないよう特に注意してください。水、砂、ホコリ、塩分等がカメラに残っていると、故障の原因になります。

手入れと保管の仕方

手入れのしかた

- カメラボディやレンズの外側を拭くときは、柔らかいきれいな布を使います。砂が付いたときは、ブロアーで吹き飛ばします。こするとカメラを傷付けます。
- レンズ面を清掃するときは、ブロアーブラシでホコリ等を取り除きます。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーを染み込ませ、レンズの中央から円を描くようにして軽く拭きます。レンズクリーナーを直接レンズ面にかけるのは避けてください。
- シャッター幕、ミラーなど、カメラの内部に触れないでください。ミラーおよびその周辺のほこりはオートフォーカスに影響を及ぼす恐れがあるため、ブロアーで吹き飛ばしてください。また、内部をボンベタイプのブロアーで吹かないでください。故障の原因になります。
- カメラ内部のミラーは、多少ほこりが付いていても露出には影響しません。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使用しないでください。
- レンズ面に直接指で触れないでください。

保管のしかた

- 使用しないときは、レンズキャップやボディキャップを付けてください。
- 長期間使用しないときは、電池を抜いてください。
- 保管するときは、涼しく、乾燥していて、風通しのよい、ホコリや化学薬品のないところに保管してください。長期間の保存には、密閉した容器に乾燥剤と一緒に入れるとより安全です。
- 防虫剤の入ったタンスなどに入れないでください。
- 保管中も時々電源を入れて、空シャッターを切るなどの操作をしてください。また、ご使用前には整備点検されることをおすすめします。

海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは

事前に作動確認とテスト撮影をおすすめします。また、予備の電池を携帯することをおすすめします。万一、このカメラを使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の補償についてはご容赦ください。

アフターサービスについて

本製品の補修用部品は、生産終了後7年間を目安に保有しています。アフターサービスについては、「アフターサービスのご案内」をご覧ください。

主な機能

項目	内容
オートフォーカス	方式：TTL位相差検出方式 検出素子：CCDラインセンサー(中央クロス、7点8ライン) 検出範囲：EV-1～18(ISO100) 動体予測フォーカス制御/AF制御自動切り替え/コンティニュアスAF/ワンショットAF切り替え可能
AF補助光	内蔵フラッシュによる補助光　低輝度、低コントラスト時自動発光　作動距離範囲：約1～5m　プログラムフラッシュ装着時、フラッシュの内蔵AF補助光に自動切り替え
測光方式	TTL開放測光(14分割ハニカムパターン測光、スポット測光) 測光素子：14分割ハニカムパターンSPC(シリコンフォトセル)4分割フラッシュ光調光用SPC(シリコンフォトセル) 測光範囲：14分割ハニカムパターン測光時 EV1～20 スポット測光時 EV4～20(ISO100 F1.4レンズ使用)
シャッター	電子制御式縦走りフォーカルプレーンシャッター　シャッター速度：1/4000～30秒、バルブ(新品電池使用時約5時間)　フラッシュ同調最高速度：1/125秒　ハイスピードシンクロ機能使用時は1/4000秒
内蔵フラッシュ	ガイドナンバー：12(ISO 100・m)　照射角：焦点距離28mm　充電時間：約4秒(カメラと電源を共有)　Pモード／撮影シーンセレクター：自動ポップアップ、自動発光(強制発光、発光禁止可)　A／S／Mモード：フラッシュアップ時は強制発光、ダウン時は発光禁止　赤目軽減プリ発光選択可能／ワイヤレスフラッシュ信号光発光可能(光量比制御も可能)
ファインダー	ルーフミラー式一眼レフレックス方式　視野率：90%×90%　倍率：0.75倍(50mmレンズ、∞位置)　視度：－1ディオプトリー　アイポイント：16mm(接眼枠より13mm)
フィルム給送	オートローディング(1コマ目まで自動送り) 1コマ撮影/連続撮影最高3コマ/秒 連続撮影露出ブラケット/1コマ撮影露出ブラケット/多重露光/セルフタイマー(10秒) 自動巻き戻し/途中巻き戻し可能 巻き戻し時間：約8秒(24枚撮り)
フィルム感度	DXコード付きフィルム使用時は自動設定(ISO25～5000)手動設定可能(ISO6～6400、1/3段)DXコードの付いていないフィルム使用時は前回のフィルム感度を自動設定　フラッシュ撮影時はISO25～1000のフィルムを推奨

<table>
<tr><td>撮影可能本数</td><td>試験条件：AFズーム28-80mm F3.5-5.6（D）・24枚撮りフィルム・新品電池使用、1ヵ月に2本撮影
●標準撮影時(1コマごとにレンズを無限遠から2mまで3回駆動させ、シャッターボタン半押しで10秒保持後撮影、その他撮影準備を含む)
温度　20℃　−10℃
フラッシュ使用しない　約30本　約24本
フラッシュ50%使用　約14本　約11本
フラッシュ100%使用　約9本　約7本
●カメラの操作回数が少ない場合(1コマごとにレンズを無限遠から2mまで1回駆動させ、シャッターボタン半押しで5秒保持後撮影、その他撮影準備を含む)
温度　20℃　−10℃
フラッシュ使用しない　約45本　約35本
フラッシュ50%使用　約18本　約14本
フラッシュ100%使用　約11本　約9本
●カメラの使い方により撮影可能本数は変わります。
●電池を長持ちさせるために、撮影しないときはメインスイッチをOFFにしてください。
●36枚撮りフィルムの場合は、上記の2／3程度の本数になります。</td></tr>
<tr><td>大きさ</td><td>127(幅)×87(高さ)×60.5(奥行き)mm</td></tr>
<tr><td>重さ</td><td>335g(電池別)</td></tr>
</table>

本書に記載の性能は当社試験条件によります。
本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

ボディ底面のこのマーク(ＣＥマーキング)は、本製品が電気安全・電波障害に関するＥＵ(欧州連合)の要求事項に適合していることを示すものです。ＣＥとはフランス語のConformité Européenne (ヨーロッパ認定)の頭文字です。